

FRONTIER



No.60
2022/2/20

Contents

- ・年頭のごあいさつ ・昭和の北大 永遠の日々を懐う
- ・職場奮戦記 〈寄稿〉 ・グローバル同窓生 〈寄稿〉
- ・活躍するリーダーに聞く／戸田建設株式会社 大谷清介さん
- ・北大発スタートアップの挑戦 ・仲間のお店応援！

表紙の写真 (左上から) 多磨霊園墓参 参加者、山崎夏生さん、大谷清介さん、島崎清明さん、
増田貴彦さん・増田千苗さん、松沢幸一さん、上月浩さん
平井翔大さん、口町和香さん、清水全生さん [絵画]、齊田季実治さん、倉沢順さん、
高木直人さん・横山修平さん、鮫島惇一郎さん、城嶽祐太郎さん

2022年 年頭のご挨拶 横田浩・石川裕一	5
昭和の北大 永遠の日々を懐く 「古きよき昭和の北大」(前編) 鮫島惇一郎	6
「卒後50年に思うこと」 松沢幸一	10
「全球入魂! プロ野球審判の真実」 山崎夏生	16
風景との対話 「風景画は楽しい」 清水全生	19
札幌農学同窓会 東京支部共催講演会 「気象キャスター 齊田季実治氏を迎えて」 坂倉雅夫	20
北大発スタートアップの挑戦 ～社長と博士学生の2足の草鞋～ 平井翔大	22
トップインタビュー 戸田建設株式会社 大谷清介さん 広報委員会	24
多磨霊園墓参 「今年も有志による開催」 浅田清	29
グローバル同窓生 「世界人を目指した30余年の軌跡」 倉沢順	30
「ベトナム行きのフロンティア」 上月浩	34
「北大で育んだ気概 太平洋の橋とならん」 増田貴彦・千苗	36
「異国で一丸の組織作り」 城嶽祐太郎	40
同窓生対談 「28歳違いのトリプルの縁!」 八谷俊雄	42
職場奮戦記 「北アルプス・林道・野生動物に携わった35年 北大と北大青年寄宿舎に捧ぐ」 島崎清明	44
「あの頃の自分と向き合う ～科学と日常をつなぐサイエンスライティング～」 口町和香	48
仲間のお店応援! 広報委員会	50
海鮮食堂「余市」/焼きたてパン工房「もりーな」/業膳スープカレー「シャナイア」 ベルギービール専門店「コム・ラ・グース」/自家製モッツアレラチーズ「七富チーズ工房」/スパイスカレー「curry草枕」	
名刺広告	54
新入会員・訃報	57
北海道大学の近況(2021年夏・秋) 北海道大学総務企画部広報課	58
事務局からのお知らせ/4コマ漫画「総合博物館あるある」 高野葵	62
北海道の花 「ザゼンソウ」 鮫島惇一郎	64

企業広告

株式会社コスモスイニシア / 中外製薬株式会社 / 株式会社デプロイネイチャー / 株式会社トクヤマ
日本軽金属株式会社 / 株式会社プライダル / 株式会社ぶらう / 株式会社北海道日建設計 ※順不同

世界 を変える。



トクヤマの放熱材料

高度化した電子部品の熱を逃す。
性能を守る。

トクヤマの放熱材料は、
世界を変えています。

www.tokuyama.co.jp

年頭のご挨拶

年の課題である新規会員獲得という点では進展が見られませんが、チームの多様化も含め一工夫必要ですが、そもそも同窓会の認知不

動の充実を図っていきます。

一方、この取組みにおいても積年の課題である新規会員獲得という点では進展が見られませんが、チームの多様化も含め一工夫必要ですが、そもそも同窓会の認知不

最後になりましたが、今年一年、会員各位のますますのご健勝とご発展を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

の声をかけをお願いします。

足が最大の課題でもあります。若手会員の獲得なくしては、同窓会の持続的発展は困難であり、認知度を向上させ、在学生のシームレスな同窓会入会を図る打開の道を、校友会事務局と連携して引き続き検討します。

話は変わりますが、年末に「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」の松井博和理事長（元農学部部長）から、かねてより札幌に新渡戸遠友記念館建設の活動を進めていたところ、北大がSDGsの一環で演習林の木材の活用や設計での協力を決めたとの報が届きました。新渡戸で同窓会の連携が促進され、建学精神の発信拠点となることに期待し東京同窓会としても応援したいと思っております。

マルクス生誕のはるか前に、地球からの搾取がいかに不合理であるかを朱子学者・陽明学者・国学者が述べていました。彼らの思想の原点は天地自然、つまり自らを

すべきではないでしょうか。

含めあらゆる地球の生命体はその根源が大自然に根ざし、自然の破壊は自己の破壊につながるという考え方は、日本人は元来自然との共生を考え、地球からの搾取を行わないことを不文律としていました。自然と対峙し戦うのではなく、自然を愛する事で自らの感性を活性化させ、その感性をもとに社会活動を構築し、文化・文明を発展させてきました。文明開化の号令の下、富国強兵・殖産興業へ邁進した結果、江戸時代の大切な思想家の朱子学をないがしろされた150年だったと思います。現在我々が見直す思考は、「資本論」を基にした環境論ではなく、東アジア文化圏の中で長期に亘り思索を繰り返して出来た江戸時代の諸賢の思想でしょう。

令和四年壬寅年頭にあたり、東京同窓会会員の皆様方に正月の慶賀のご挨拶を申し上げます。皆様にとりまして、本年が良い一年でありますようご祈念申し上げます。

改めまして、皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

そして、その延長線上にある経済成長至上主義の先には、地球を救う解は全く見当たりません。

含めあらゆる地球の生命体はその根源が大自然に根ざし、自然の破壊は自己の破壊につながるという考え方は、日本人は元来自然との共生を考え、地球からの搾取を行わないことを不文律としていました。自然と対峙し戦うのではなく、自然を愛する事で自らの感性を活性化させ、その感性をもとに社会活動を構築し、文化・文明を発展させてきました。文明開化の号令の下、富国強兵・殖産興業へ邁進した結果、江戸時代の大切な思想家の朱子学をないがしろされた150年だったと思います。現在我々が見直す思考は、「資本論」を基にした環境論ではなく、東アジア文化圏の中で長期に亘り思索を繰り返して出来た江戸時代の諸賢の思想でしょう。

含めあらゆる地球の生命体はその根源が大自然に根ざし、自然の破壊は自己の破壊につながるという考え方は、日本人は元来自然との共生を考え、地球からの搾取を行わないことを不文律としていました。自然と対峙し戦うのではなく、自然を愛する事で自らの感性を活性化させ、その感性をもとに社会活動を構築し、文化・文明を発展させてきました。文明開化の号令の下、富国強兵・殖産興業へ邁進した結果、江戸時代の大切な思想家の朱子学をないがしろされた150年だったと思います。現在我々が見直す思考は、「資本論」を基にした環境論ではなく、東アジア文化圏の中で長期に亘り思索を繰り返して出来た江戸時代の諸賢の思想でしょう。



東京同窓会会長 横田 浩 (S60・経)



東京同窓会副会長 石川裕一 (S54・法)

私たちがつくっている薬の多くは、ふだん接することはあまりない。けれどその薬があることで守られているふつうの暮らしが、きっとある。病気になってしまったとき、ちゃんと治療法があること。それはこの世界になくしてはならない希望。当たり前の日々を守り抜くために、今日も新たなイノベーションを。

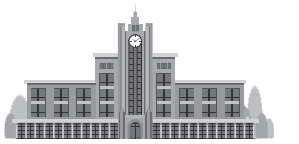
なんでもない1日を守れ。



創造で、想像を超える。



Roche ロシュグループ



古きよき昭和の北大(前編)

鮫島惇一郎
(S25・理・植)

◇運転免許証などの日付

昭和、昭和といいますが、やっぱりこの世に命を戴いた時からの話を綴らなくてはならないでしょう。運転免許証や官公所の書類などにはかならず生年月日を記入するようにとなっております。仕方ありません。したがって生まれた時は「大正15年1月22日」と記入しなくてはならない仕掛けです。西暦に直せばただ1926年で済んでしまうのですが。大正15年の12月25日に大正天皇は亡くなりました。したがって、翌日から元号が変わり、昭和元年となったのです。生まれた年はたった6日だけの昭和がありました。

◇北海道帝国大学といった頃

現在も農学部の高層は北大のシンボルとして可成り目立つ存在です。札幌に居を構えたのが昭和9年の4月です。石炭ストーブ全盛?の頃の薄汚れた街でありました。人口はまだ18万といった時代でした。通うことになったのは苗穂小学校でありました。

農学部の前を鉄砲を担いで行進する数多の学生たちの姿、同級生たちのあの姿は眼に焼き付いており忘れられません。残されたものも学業どころではありません。札幌近郊(江別市)の男手の無くなった農家へ泊まり込みで農作業です。そして我にも赤紙(召集令状)が届きます。行く先は遠く本籍のある鹿児島歩兵聯隊でした! やがて: 堪え難きを堪え、忍び難きを忍び: となるのです。同年(1945)の夏でした。戦争の惨めさと安堵の混じったおかしな気分がつづきます。誰のための何のための戦いだっただのか。破壊と失われた無数の命。虚脱と怒りが錯綜するなか、北へ帰ります。鉄道だって無傷ではありません。幾つもの鉄橋は落ちておりました。やっと広島です。「ピカドン」といわれた原爆の惨状の片付けなど手伝いながら、いろいろと話を聞かされました。知り合いの若い女性のことでした。「: ぼろきれを纏い、足を曳きするように歩いてきた:」というのです。言いたいようなない錯綜する思いをどう表現したらよいのか? 放射能の恐ろしさなどよく知られていない頃でした。焼け野原の大阪、名古屋、そして東京です。幸いにも爆撃を逃れた叔父の家で骨を休め、上野から北へ向かいます。そして青森で

たのです。

◇臨時教員養成所の頃

昭和16年12月8日、いよいよ太平洋戦争が始まりました。現在は大通りにテレビ塔が建っておりますが、その頃はただの広場でありました。市内の学校の生徒達が集められて宣戦布告の言葉や聞かなくてはなりません。あの悲惨な結果を生むことになるのですが、言葉だけは立派です。「大東亜戦争」といいました。戦争の真の状況は国民には知らされません。大本営発表という曲がった情報しか流されない仕掛けでありました。

その頃(一般的には中学(旧制))

が終われば次に進むのが高等学校(旧制)か高等専門学校です。札幌には北大の予科がありました。札幌には北大の予科がありました。受験しましたがこの予科の受験には見事に失敗してしまいました。しかし救いの手がありました。「札幌臨時教員養成所」という高等学校と同程度の資格が貰える施設があったのです。戦局は好転いたしません。中等学校教員(旧制)までが動員となる時がすぐ来たので



ノハナシヨブ園にて
2018年6月30日

す。国はあわてて理数系の教員を補充する制度まで創ることにになりました。応募規定を見ると、学資として年額240円、月に直せば20円を支給するというのです。経済的にはありがたいですね。5円あれば下宿代が賄える時代でありました。

養成所に専用の教室などはありません。理学部の数学と生物学の教室が応急の仮教室です。籍をおいたのは生物学科でした。教官は理学部の山田幸男、猪野俊平、石川俊夫先生たちが担当されたのです。しかし戦いは泥沼に向かいます。十勝の本別軍馬補充部の農作業などに行くことになります。昭和20年の春となりました。当然のこととして学徒動員となります。

す。津軽海峡は爆撃を逃れた貨物連絡船に揺られてやっと函館となり添いのヤマブドウ。使い古された言葉「国破れて山河在り」を頭の片隅で呟いておりました。のろのろと走った列車が苗穂駅に止まったとき、そうか確かに我が家に帰ってこられたのか! 夢を見ていたのかな、なんておかしな気分でありました。

◇理学部植物学教室へ

懐かしい教室を訪れてみました。昭和20年(1945)は残り少なくなっておりますがこの年に開講は出来ないとのことでした。年が明けても教室の暖房は無理だといえます。石炭が不足していたのです。そして新学年から、教室は農学部の南にある古い木造の水産実習室の建物に移るといっておりました。

三学年が始まりました。歩けばミシミシと音のする廊下です。なにか懐かしい雰囲気でした。空白の教科をこなさなくてはなりません。



古河講堂1953年7月19日



古い理学部、今の総合博物館
1953年7月19日撮影

ん。教官も大変です。忍路や厚岸の臨海実験所などでの実習は楽しみでしたが教科をこなすのが大変でした。夏が終わります。農学部におられた館脇先生のはじめの授業がありました。この時期になっても野山にはまだ緑が残っている羊歯があるはずだ。次の講義のおりには円山や藻岩で採集したものを持って来なさい、というのです。しかし次の週、誰も実行した者はいなかったのです。これには先生がご立腹! いきなりラテン語の学名の説明。チンプンカンプン。そして我がスケッチを見られて何やら考えられた様子でした。これが先生との長い絆となつたきっかけでありました。年が明けその3月には臨教とはお別れです。その先を考えてみました。学部に進もうかそれとも高校の教師

になるか迷いましたが、学部の植物学教室へ進んでみよう、あとはうまく編入試験に合格すれば...。いろいろと話題を残しましたがどうやら植物学教室へ合格でした。やれやれといった気分だったのでしようか。学部では、最初の二年間は臨教時代の教官でありましたし、また教科の内容もより詳しくなつて、実験時間が大変増えたのです。これは嬉しかったですね。

◇新入生歓迎会 そして卒業論文

昭和23年の春は学部二年目に進級です。新入生が入ってきます。なんとしても歓迎会をやりたいのですが、未だ食料事情が苦しい頃です。電車通り(まだ札幌市電が活発に働いていた)にあったクワッカ煎餅屋で量を確保したり、琴似にあった農事試験場の先輩に頼んだ林檎なども加えたのですが、やはり物足りません。そうだとアルバイト先のパン屋からコッペパンを確保してやろうなんて掛け合つたのです。すると今焼いてやるからすぐ来いというので、行啓通りの店まで市電で直行したのです。パンはしっかりと焼き上がっておりませんでした。リュックサックに詰め込んで急いで戻ったのです。いま焼き上がったばかりの温かいパンです、と紹介すると皆さん大



元水産実習室・水産講堂前にて
猪野俊平先生ご夫婦 1962年8月25日

変喜びましたねー。家族に持って帰るといふ先生までおられたのです。もちろん飲み物は番茶でありました。

三年目になりました。いよいよ卒業論を提出です。講座は三つありました。形態学、分類学、生理学です。ならばと形態学教室にしたのです。担当の教官は松浦一先生でありました。与えられた課題は「牧草の染色体解析」でしたが、どうもこれは気乗りがいたしません。「勇を鼓して？」テーマを変えてほしいと教授のもとを訪れました。

卒業論のテーマを変えてほしいといってきた学生は、理学部創設以来あなたが初めてですが、気乗りがしないというならしかたありません。そして一言、「ではクルマユリでもおやりなさい」という

わけで、早速近くの「空沼岳」へ材料探しとなるのです。卒業論はやつと提出、どうやら卒業となったのです。昭和25年の春でありました。研究の面白さが少し解りかけたといひましようか！大学院（旧制）というのがあるといひます。ならばもう少しそこで何かを学んでみようと思つたのです。

◇植物形態学教室で

その頃の植物形態学教室では、主としてオオバナノエンレイソウを中心として染色体諸々の課題が研究テーマとなつておりました。したがって可成りの量の植物体が毎年消費されるのです。しかし大戦の影響で少なくなり、いよいよ材料の確保に出掛けなくてはならなくなつたのです。これには人手と旅費が必要です。しかし教室に宛てがわれていた旅費はわずかでした。その頃の実験材料の確保は列車と旅館が頼りでした。車社会の現在では理解できない課題がたつぷりあつたのです。どうしたらいいものかと考えたとき、提案されたのは天幕持参と自炊で賄おうということでした。言うならば山岳部や探検部方式を真似ることです。これなら学生である我々も手伝えるではありませんか。オオバナノエンレイソウが豊富な白老や静内の山林がまず手始めとな

りました。寝袋に横たわるとコノハズクの鳴声が一日の疲れを癒してくれた白老ポロト湖畔の日々が懐かしく思い出されるのです。

新しく動植物の集団遺伝学的研究がはじまりました。昭和24年だったでしょうか。指導教官は芳賀恣、倉林正尚両先生でした。特に倉林先生は「倉さん」と呼ばれ山岳部の先輩でもありました。研究はエンレイソウ達の集団遺伝学的解析でありましたから、北海道から東北までが守備範囲となりましょう。花の咲く春は勿論、夏も加え試料の採集となつたのです。土地の人との交流も楽しい存在でありました。火を起こした七輪に採りたてのシイタケ、浜では茹で上がったばかりの花咲ガニなど、愉快な思い出が尽きません。

廃線となつたJRの日高本線など懐かしいですね。富川、平取、新冠、静内、鶴苦、様似、幌泉、襟裳岬、庶野、広尾、豊似などが試料の採集地でありました。年が変われば、道東、道北など利尻島や礼文島などまで足を延ばしたのです。

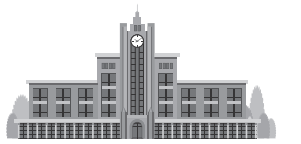
大量にまとめて手に入る所がありました。日高、十勝はオオバナノエンレイソウの多い土地であります。豊似には坂本直行さんがおられました。直行さんは北大山岳部の大先輩でありましたから気楽

に周辺の群生地が試料獲得の提供源となるのです。付け加えると、直行さんは昭和35年に開拓農家を捨てて、山岳、野草の画家として生計をたてられるようになりました。「歩々の会」という素人画家集団を率いて活躍されたのです。

一方、先に触れた館脇先生のもとは森林の樹種構成、配置などいろいろとご指導戴いたので。特に中央高地では高山植物が面白く、あれこれ首を突っ込むことになつてしまいます。昭和25年夏に旭川で北海道博覧会が開かれ、その一角に設けられた「高山植物館」の手伝いをする事になったのです。館脇先生が「大雪の開花した生（なま）の高山植物を一般の市民の見せてやったらどうだ」といふのです。開花寸前の個体を掘ってきて、花期が終わったら必ず元の場所に戻そうという計画がありました。その厄介な作業が廻つて来たのです。勿論一人ではありません。数人の共同作業となりましたが楽しいアルバイトでした。しかし高山や森林の植物だけに夢中になるわけにはいきません。本来のエンレイソウたちの生態や染色体の解析にも力をそそがなくてはならないのです。時間だけは勝手に進みます。

(次号へ続く)

アルミのことなら日軽金



卒後50年に思うこと

◇学生時代の思い出

昭和46年3月の卒業から早や半世紀が過ぎた。振り返ってみるあつという間だったが、農学部農芸化学科で過ごした2年半+修士課程2年は、とても懐かしく貴重な思い出だ。

●農芸化学科で過ごした日

群馬の田舎から南極越冬観測隊に憧れ、北大理類に入学した。しかし、教養課程で進路について悩んだ末、農学部農芸化学科への進



2009年～2012年キリンビール社長、2017年～2021年明治屋社長、2013年～2017年新渡戸カレッジフェロー

松沢 幸一 (S48・農・生物化学研究室)

講義は真面目に出席したが、学生実験はサッカーの練習のため途中で抜けることが多かった。そのため、松中照夫君や目黒和枝さんなど席順が近い人に大変迷惑をかけた。いつも快く助けてくれた仲間には今でも感謝している。先生方の講義はどれも興味深かったが、もはや教えてもらったことこの断片しか頭には残っていない。転勤が多くノートは処分してしまった。今更ではあるが、大事なものを捨ててしまったと後悔している。

4年になって生物化学講座(下村得治教授)へ進み、修士課程を修了した。生活に身近な事象を扱い、卒業後の職業についてもイメージし易かったのが最大の理由だが、小幡弥太郎先生(サッカー部部長)や坂村貞雄先生(館林高校の先輩、後に農学部長・帯広畜産大学学長)がいたのも決断を後押しした。

成に取り掛かったが異常反応を起こし大量の臭素ガスが発生した。本間先生がフラスコを外側の雪の中に放り投げて事なきを得たが、全員が暫く避難するトラブルになった。それから暫くして、下村先生から「修士で終えるならテーマを変えようか」という提案があった。修士課程では「蕎麦種子の発芽時における糖代謝について」というテーマをもらった。4年先輩の高橋布住さん(博士課程3年)が指導役としてついでくれたが、郷里が近く(高橋さんは栃木県足利市)穏やかで優しい人だった。大学院の一年下には松井博和、佐伯雄史、小出祐治の3君がいた。彼らの見本になるような良い先輩になるうと努めたが、果たしてどうだったろうか。研究は2年生の後半になってからはばかばかしい進捗



農学部前で

がなく大変焦った。期限ぎりぎりで漸く修士論文を提出できた時は本当に胸をなでおろした。

自分は研究向きではないと悟ったのがこの研究室での3年間での結論だった。

修士修了後はキリンビールで働くことを希望した。親父がキリンビールしか飲まなかったことや事業がわかり易いことが理由だった。下村先生に推薦状をお願いしたところ、「ビール会社の仕事はつまらないし、大学院出の仕事はない。従って、推薦状は書かない」と断られてしまった。仕方なく澤井功先生(助教)に書いてもらった。ところが、面接試験で「当社には大学院出の仕事はないが、受験の動機は？」とご下問があった。下村先生の話と同じだ。「こりゃ駄目だ」と観念しかかったが、咄嗟に「これからもビール一本で行けるとは思えない。そう

いう時にはお役にたてる」と答えた。それが効いたのか判らないが、なんとか合格できた。入社して判ったのだが、なんと8人も修士課程修了者が採用されていた。会社も「そろそろ…」と考えていたのだ。

修論をなんとか提出してから、小出君を誘って十勝岳で春スキーを存分に楽しんだ。その後あった卒業式・修了式では、私が学年を代表して学位記を受けた。たまたま農芸化学科の順番で、札幌に最後まで残っていた私に白羽の矢が立ったのだ。ただ、雪焼けの顔は真っ黒で髪は伸び放題、とても2年下の卒業生たちの見本になるような姿ではなかった。在学中、最後の失敗だった。

●再びの北大

キリンビールで39年働いたが、この間、北大との関わりは少なかった。再び関係が始まったのは会社をやめてからである。2012年から同窓会活動(札幌農学校同窓会、北大東京同窓会、校友会立上げ準備委員会)に関わり、2013年スタートの新渡戸カレッジでも5年間フェローを務めた。そのため、少なくとも年5〜6回は北大を訪ねるようになり、学生時代に吸った空気を感しながら、学生、教員、他学部の0



2017年 NHK Eテレに出演

B・OGフェローなどとの交流を重ねた。私には札幌農学校や北大を深く知る良い機会になった。

また、2017年秋にはNHK Eテレの人気番組「知恵泉 先人たちの底力 新渡戸稲造篇」から出演の声がかかった。それを契機に札幌農学校についてさらに学び、学外の人と交流する機会も増えた。

在学中はただ恵まれた環境で過ごせたことで満足していたが、還暦を過ぎてから母校の歴史を学び、その価値に気付いたのだ。

◇70歳を過ぎて今思うこと

2020年に中国武漢で始まった新型コロナウイルス感染症が瞬く間に世界を席巻し、現時点で420万人を超える人命が失わ



農芸化学科3年次の学生実験(後列右)

れ、人類の歴史的脅威となっている。完全克服への見通しはまだたっていない。国内でも遅れがちながらワクチン接種が始まったが、変異株も出て全国で爆発的な第5波感染拡大が起きることが心配されている。「密を避ける」「マスクを着用する」「手洗い・うがいをする」など、生活上の制約も依然として続いている。しかし一方では、多くの人が反対や疑問視していた東京オリンピックは強行開催されている。IOCや大会組織委員会、政府、東京都など当事者の言動は国民を憤らせ惑わすばかりだが、真摯な説明はなされないままである。高校1年生の時の希望に満ちて輝いていた東京オリンピック(1964年)とは大きな違いだ。苦しい練習を積んできたアスリートには本当に気の毒だ。

国内外ともに激動と多難の時代だ。新型コロナウイルスのような伝染性疾患が猛威を振るう背景には、経済のグローバル化とそれに伴う活発な人の往来がある。第2次大戦後、民主主義・自由(市場)経済・グローバル化を軸に、世界中がひたすら豊かで平等な社会の実現を目指してきた。共産党一党独裁の国でも同様である。しかし、ここに来て負の側面が一気に噴き出している。産業構造は製造業中心



からIT情報産業へシフトし、世界の情報が瞬時に伝わり、誰でも容易に手にいれることが出来る。しかし、貧富の差は極限まで拡大し、貧しい国や人々は置いてきぼりにされている。豊かで安全な生活を指す人々が先進諸国に殺到し、様々な情報の渦の中で分断と対立の溝は拡大している。衣食住に關しては我々が育った頃よりは随分良くなったと思うが、不公平感と不満は高まる一方である。国家・地域・個人の溝はもはや生半可な努力では埋めきれないほどになっている。

また、世界のリーダー層の資質が著しく劣化していることも大問題だ。象徴的な人物が米国のトランプ前大統領だ。4年間の治世では、自己の利益を最優先し、民主主義の否定や世界や国内を分断する扇動的な政治までやってしまった。世界の民主主義国家のモデルを自認してきた米国は、今やその後遺症に苦悩している。一方、共産党独裁の中国は鄧小平が天安門事件で民主的な動きを押しつぶし、経済最優先の政策を続けてきた。その結果、日本や西欧諸国を凌ぎ、米国に迫るレベルまで経済力は成長した。しかし、その一方で、力を背景にした覇権主義の欲が生じ、自国民・近隣諸国の人権や民主主義、友好を踏みこむ動きが

顕在化している。その他の諸国でも権力者の地位と利益保持を優先する政治が繰り返され、世界各地で紛争が多発・激化している。残念なことにはわが国も、権力の座にある政治リーダーが行政を自分のための道具として使い、他者からの意見は聞かず、国会で虚偽説明を繰り返して、満足な説明もしないままに独断的な政治に突き進んでいる。また、カルロス・ゴーン事件や東芝騒動などの事例が示すように、経済界もまた自己利益を優先して追求する経営者が目立っている。戦後の安定した社会を形づくってきた人権の尊重、自由平等、公平な分配、民主主義、国際協調、倫理道徳など公共財であったことがほとんど後退している。

「知恵泉 先人たちの底力 新渡戸稲造篇」では、前篇のテーマが「不寛容社会」と「教養」、後篇は「武士道」と「国際社会」だった。あの時、製作者は日本が抱える問題やリーダーの在り方について、視聴者にも真剣に考えてもらいたいと問いかけたに違いない。また、今年NHK大河ドラマは「晴天を衝く」が放映されている。商売（ビジネス）にも倫理道徳がなくては行けないと説き実践した渋沢栄一（論語と算盤）は、今も現在の社会に対して警鐘を鳴らしているようだ。

日本は少子高齢化による人口減少、地方の過疎化などが進み、世間の経済格差が生じ、教育研究や技術力・産業力も国際的に劣位になりつつある。これらの問題に対して、政府・行政、企業は有効な策を見いだせず、すべてが先送り状態にある。次の世代にそのツケが重く押し加わって行くのは間違い。我々がこれからの世界・日本がどうなっていくのかを見届けるために、鍵を握るのはこれからの社会を担う若い人たちだ。彼らがどのような国や社会をつくるのか気になるが、彼らに任せるしかない。しかし、我々が学んだことを一つでも彼らに伝えておくことは、我々に課せられた大きな責務だと考えている。

半世紀前、勿体なく過ごしてしまつた反省と、お世話になつた学校、先生方への恩返しのかたちをこめてそのように努めている。

◆札幌農学校について

札幌農学校は明治政府が北海道の開拓と産業振興、北辺の守りのための人材を育てるためにつくつた学校で、天地人がそろつた奇跡の学校だった。

260年以上続いた江戸時代は外国との交わりは限定的であつたが、それなりに安定した平和な良い時代であつた。しかし、産業革



クラーク像

職業教育でなく、幅広い人間をつくるリベラルアーツ教育、自分で考え実践する能力を養うことを目指した。

ウィリアム・スミス・クラークがマサチューセッツ農科大学学長を務めていた時、米国を二分する南北戦争（1861〜1865年）が起つた。アメリカ独立宣言とリンカーンの奴隷解放宣言に共鳴していた彼は志願して北軍の士官となって激しく戦つた。ほぼ時を同じくして、日本では明治維新と戊辰戦争（1868年〜1869年）が起り、幕藩体制から近代統一国家へと生まれ変わりがつあつた。札幌農学校が開校した翌年も西南の役が起きるなど、混乱と模索の時は続いていた。当時の米国と日本は共に激しい分断と混乱の時代だったが、それを乗り越え、新しい国・新しい社会・新しい学校と人材が生み出されたのだ。

1年の休暇で日本に來たクラークは札幌に9ヶ月しかいなかったが、熱い思いに溢れた指導で若い学生たちに強い影響を与えた。「The gentleman 紳士たれ」「Boys be ambitious (like this old man) 少年よ大志を抱け」などの言葉はつとに有名だ。また、彼と共に來たウィリアム・ホイラー、ディビット・ペンハロー、ウィリアム・ペン・ブルックスも新しい学校づくりに尽力した。クラークが去つた後、順番に教頭を務めて、クラークの教育を継続し発展させた。彼らはクラークの教え子だが、自分の信条・理念もしっかり持つていた。ホイラーはマサチューセッツ農科大学時代、2回も学生ストライキを組織してクラーク学長に反抗したという。彼は「日本の教育は記憶中心で模倣には長けていて、自ら考え創造する力は養われてない」、「思想が伴つた知識は尽きることはない資源足りうる」と語っている。ペンハローは正義を堂々と主張する不屈の精神を持つた人物で、学生たちにもそのように教えた。ブルックスは講義と農事実習を組み合わせ、様々なことを巧みに管理出来る能力を培う指導をした。

彼らに共通するのは、単なる専門教育、職業教育でなく、幅広い人間をつくるリベラルな全

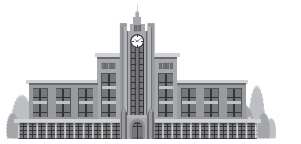
人教育、自ら考え理論を応用出来る実践能力を養う教育を実行したことだ。これが、現在の北大の理念である「フロンティア精神」「実学の重視」「全人教育」「国際性の涵養」の基礎となっている。国立大学には珍しく歴史に裏打ちされた教育理念があるのは、北大の誇りだ。

●全国から集まつた優秀な学生

一方、二十歳前後の若者が全国から札幌に集まつた。旧士族の子弟が中心だったが名主や商家の出身者もいた。当初は生活費まで官費で賄われたので、花の都東京を後に人口3千人の札幌というフロンティアを目指した。彼らは皆、気鋭の人材だった。自分が果たすべき役割をしっかりと認識して勉学に励み、卒業後は国内外の多方面で活躍した。自由な学風・全人教育・自主自立の精神・弱者の側に立つ姿勢・非権威主義・フロンティア精神・実学の重視・現場主義など今の北大につながる農学校の精神風土づくりに彼らも大いに貢献した。なお、1期生、2期生は全員がキリスト教に改宗している。内村鑑三が最も強く改宗を拒んだというが、最も敬虔な伝道師となつたことは興味深いことだ。（余は如何にしてキリスト信徒となりしか）



中央は北1条通り、左奥に演舞場(後の時計台) (北大中央図書館提供)



● 母校を守った1期生

1期生は24名が入学し、半数の13名が卒業した、主な卒業生には佐藤昌介、大島正健、伊藤一隆、渡瀬寅次郎らがいる。中途退学になった人たちは北海道各地へ派遣され、開拓事業に従事したという。

佐藤は新渡戸稲造、内村鑑三ら後輩を援けながら長年母校の発展に尽くした。札幌農学校は東北帝国大学農科大学、北海道帝国大学と名称や位置づけを変えながら続いたが、井上馨ら政府首脳の反対にあい廃校になる危機が幾度かあった。存続しえたのは、まさに佐藤の獅子奮迅の働きのお陰である。佐藤は北海道帝国大学初代学長まで務めたが、北大の大家である。今でも本部前と農学部中央階段で彼の胸像が学校を見守っている。大島、渡瀬は教師として全国各地で多くの人材を育てたが、数多くの教え子やそのまた生徒が札幌農学校に学んだ。伊藤は北海道水産業の振興に尽くした人である。

● 世界で活躍した2期生

2期生はクラークの教えは受けなかったが、新渡戸稲造、内村鑑三、南鷹次郎（農学者、北海道帝国大学の初代農学部長・2代目学長）、宮部金吾（植物学・農学者

で文化勲章を受章）、廣井勇（土木学者、港湾土木の父といわれた）、町村金弥（農場経営、長男敬貴が町村牧場を創立）、足立元太郎（横浜生糸検査所所長、岩崎親（教育者）らの人材が輩出された。

新渡戸稲造は盛岡藩士の三男だったが9歳で上京、15歳で札幌農学校に入学した。卒業後、東大に在学したが半年ほどで米国に渡り、22歳でジョンズ・ホプキンス大学を卒業した。その後、政府の動きを探知した佐藤昌介がドイツで専門知識を深めてくるよう勧め、ドイツの3大学で学び博士号をとって札幌農学校に教授として着任した。札幌には米国の教会で知り合ったメアリー・エルキントン夫人を伴っていた。その3年後、夫人の実家で家政婦をしていた人の遺産をもとに、貧しくて学校へ行けない子どもたちのための遠友夜学校を豊平に開いた。この学校では50年間に約5千人が学ん



佐藤昌介 像



新渡戸稲造 像

家族として扱うべし
⑧ 誠実によりて得たる信用は最大の財産なりと知るべし
⑨ 清潔、整頓、堅実を主とすべし
⑩ 人もし全世界を得るともその靈魂を失わば、何の益あらんや。人生の目的は金銭を得るに非ず、品性を完成するにあり

● 学外で札幌農学校の影響を受けた人々

新渡戸と内村は生涯を通じて援けあい切磋琢磨しあう親しい友人だった。彼らは、学外でも様々な人々に影響を与えた。皆、日本の国づくりに貢献した人である。

・津田梅子（女子教育の先駆者）
新渡戸と米国留学中に知りあった。新渡戸は梅子が創立した女子英学塾（後に津田英学塾、津田塾大学）の顧問として30年間に渡り支援を続けた。
・南原繁・矢内原忠雄（教育者）
第一高等学校時代に新渡戸の影

だが、札幌農学校・北海道帝国大学の学生60名がボランティアで教師を務めた。その中には、納豆博士として有名な半澤洵先生や石塚喜明先生、佐々木西二先生など我々の身近にいた人もいた。北斗星をかたどった遠友夜学校の校章は佐々木先生のデザインだ。ある時、先生が応用菌学の授業中にモンゴルのジンギスカン鍋はどのような形をしているか黒板に絵を描いて説明してくれたことがあった。遠友夜学校は札幌農学校が誇るべき歴史の一コマである。軍事教練を拒否したため軍部の圧力で1944年に閉校になったが、現在は「遠友夜学校を考える会」（理事長は1年後輩で札幌農学校同窓会理事長の松井博和さん）が、新しい時代に相応しい交流の拠点をつくろうと活動している。

新渡戸は1900年には米国で『Bushido: The Soul of Japan』（日本語版は『武士道』）を書き、日本人の倫理道徳観、武士のリーダーたる心構えを欧米に広く紹介した。また、台湾の砂糖産業の基盤づくりや京都帝大・東京帝大の教授、第一高等学校校長、東京女子大学長、国際連盟次長などの要職を次々に務め、教育・言論・産業・国際政治など様々な分野で活躍した。彼が粘り強い対話によって相互理解を図り、結論を導き出

響を強く受け、戦後東京帝大総長として民主主義教育の基礎をつくった。矢内原は神戸中学時代にも鶴崎久米一校長（農学校2期生）の影響を受けた。
・田島道治（宮内庁長官）と三谷隆信（侍従長）
田島は銀行家、三谷は外交官

だったが、共に第一高等学校時代に新渡戸の影響を強く受けた（田島は新渡戸家の住み込み書生だった）。2人共、戦後の宮廷改革に尽力した。
・鈴木タカ（日本を終戦に導いた鈴木貫太郎首相の妻）
2期生足立元太郎の娘で昭和天皇・高松宮の養育係を10年余り務め、民主的で広く社会に目を向ける教育をし、二人に強い影響を与えた。元海軍大将で昭和天皇の信任厚い侍従長だった夫が二・二六事件で瀕死の重傷を負った際、止めをさすのをやめさせ夫の命を救った。また、終戦の詔勅を守り太平洋戦争を終結に導いた夫を助けた。

・松前重義（東海大学創立者）
東北帝大（工）を卒業後、通信省で働いていたが人生に悩み内村に師事してキリスト教者となった。通信省局長時代に無謀な戦争反対を高松宮に上奏したことで懲罰徴兵され二等兵でフィリピンへ出征、戦後、通信省総裁に就いた

すという姿勢を一貫してもつていたことは特筆すべきことである。分断と対立が鮮明になっている今日こそ、彼の業績を改めて思い起こす価値がある。

彼は多くの著作や言葉を遺したが、私は「練られた品性（decency）、練々たる余裕」という言葉が好きだ。人はどうしても実績を上げなくてはという意識に駆られ、周囲に過度な負担を強いて問題を起こしがちだ。私はこの言葉を持つてことにあたるような心がけている。また、「偉大なる常識人であれ」という言葉にも共感する。特定の分野のことを深く知っているよりは、すべてのことを少しずつ知っていることが重要だという。石塚先生は講義で「君たちは農芸化学の学生だが実験室にこもって仕事をするだけではない。植物や動物、そして農業を人に説明できるように、しっかりと勉強してから卒業しなさい」といつていた。彼も新渡戸の教えを引継いで「全体知」を大事にしなさい、大局観を持てばバランスも良くなる、といっていたのだと理解した。自己中心の利益主義や部分最適では国や組織の運営を適切にすることは出来ない。そして、家庭生活や対人関係、仕事においても旨く行くはずはない。新渡戸は現代に最も必要な大事なことを

が公職追放になり望星学塾、東海大学を創立、教育・スポーツ、国際交流に貢献した。
・李登輝（台湾初の民選総統）
京都帝大で新渡戸に学んだ農業経済学者。台湾大学教授、台北市長を経て、初の民選総統となり（1988-2000年）台湾の民主化と発展に尽くした。著書『武士道解題 ノープレス・オプリージュとは』は伝統と自信を喪失した日本人への激励の書でもある。

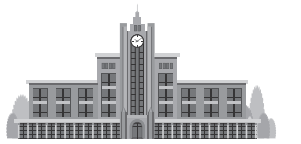
◆最後に

現代は変化が激しく先が見通えない。こういう時こそ、先人たちが遺してくれた理念や哲学・人としてのあるべき姿を学び、日常に生かすことが重要だと思っっている。私も自分なりに実践するよう努めている。

◆◆

世界や日本が早く困難を抜け出し、新たな地平が切り拓かれることを願っている。

◆◆◆
本稿は農芸化学科同期生の卒業50年記念文集（2021年8月、編集松中照夫さん）に掲載したものを加筆修正した。なお、札幌農学校の項は、2021年3〜6月に北大東京同窓会丸の内カレッジ（計4回）での話がベースになっている。



全球人魂！ プロ野球審判の真実

◇パ・リーグ審判29年

昭和50年に北大へ入学し、大学での専攻は野球学部の補欠学科でした、というのが定番の挨拶。とにかく根っからの野球好きです。学力はさておき、野球力は明らかに水準以下なのに「好きだ」という情熱だけはトップクラスでした。たまたま3年生の秋のリーグ戦で初めて勝ち投手となり、その狂騒状態で大胆にも野球で飯を食



金田監督退場

ましたが、それでも言い続けたことが3つあります。

1 一番目は体力

まずは強い体を持つこと。何か事を成すには「心技体」が重要と言われますが、これは「体心技」の順番。気力は体力と連動しており、強い体なくしては生まれません。この2つがあれば技術は必ずや身に付きます。そもそも審判は150キロのボールを投げたり打ったりするのはなく、見るだけでいいのです。誰だって練習を積み重ねることができるようになります。ただ、それをプロレベルにするには圧倒的な量が必要です。凡人の努力などせいぜい10分の1程度しか報われない。それでも人の倍やれば20分の2となり、10倍やれば100分の10となる。この単純な数式を愚直に信じやり続ける粘り。百や千ではなく、万の単位をいとわぬ練習。こんな「継続は力なり」という言葉を支えるのは間違いない体力なのです。

2 応援を力に

次は「応援される人間になれ」でした。人間は皆プライドが高く、なかなか自分の能力の低さや努力の足りなさを認めたくないものです。上手くいかない原因は周囲にある。でも、それでは誰からも応援してもらえません。その原因は必ずや自分の内部にありま



野茂対清原



稲葉選手



楽天の選手 抗議中

おうと決断してしまつたのです。その後、紆余曲折はありましたが究極の裏口入学でプロ野球審判員となりました。この経緯は割愛しますが、要はオンリーパワー・ノーブレインでの強行突破でした。まあ、大過も小過もたつぷりである審判人生でしたよ。退場宣告は歴代最多の17回、そのうち15回は自分のミスジャッジで逆切れした。通常の引退には「惜しまれつつ」という枕詞が付きますが、私の場合は関係者一同がホッとしたらしい。夢だった日本シリーズには一度も出場できなかった。

た、という実績からその実力もお察しできるでしょう。でも、運と縁に恵まれともかくにも55歳の定年まで全うすることができました。そんな問題児でしたがパ・リーグ審判として29年間グラウンドに立ち、その後NPB（日本プロ野球機構）審判指導員として8年間、若手の育成に励みました。都合37年間をプロ野球界で過ごし、2018年に退任。現在は基本的には年金生活者ですが、それでは酒代も出ない。書いたり喋ったりで糊口をしのいでいます。少しは

す。それを素直に認め、そこからひたむきに頑張れ！裏表のない努力を継続すれば必ずや手を差し伸べる人が現れるのです。そしてその応援の力は何よりの励みとなります。北大応援団のエピソードを書きます。野球を盛り上げるのはスタンドからの応援で、そのリーダーとなる応援団と野球部はいわば兄弟部のようなものでした。実際に体育会系のコンパや寮生活で彼らと酒を酌み交わし、勝って喜び負けて泣き、挙句の果ての乱痴気ストームをやつた思い出などは忘れないのに、今でもゾンビのようによみがえってきます。

ンチ上からの壘声やユーモラスな野次は中島や円山球場の名物でもありました。樽商との定期戦では得点する度に応援団員と野球部員がグラウンド内でストームを組んで喜びを爆発させたものです。応援団からのエールは時には大きな戦力となり、選手から信じられないような最大限の力を引き出してくれることもありました。2010年6月の大学野球選手権に出場した北大は1回戦で四国学院大、2回戦は大学での通算打率428という怪物・柳田悠岐（ソフトバンク）のいる広島経済大をいずれも3対1で破りました。過去の3度は初戦敗退でしたがこれほどの快進撃は初めてでした。そして勝てば全国ベスト4という



審判指導



北大野球部 OB
山崎夏生
(S54・文)

文学部国文科卒の素養が生かされるようになりました。また、人よりややある能力と言えれば野球審判ですし、あれだけ痛い目に会いながらも未だに好きなのです。NPB退任後、すぐに学生野球資格回復研修を受け、今はアマチュア審判として現役復帰しグラウンドに立っています。

まあ、文句を言われない審判は楽しいですね。小中高大学から社会人、女子野球、障がい者野球とあらゆるカテゴリーの審判をしています。どこの組織にも所属しない、いわば「流しの審判」です。先日の草野球ではベンチからヒソヒソ声か。「あの人、わりと上手いね」だとき。同窓生の皆様、審判のご用命がありましたら気軽に声をかけください。

◇3つのおススメ

さて、現役引退後の8年間は若手審判の指導員でしたが、実に小うるさい昭和のオヤジでした。指導を巡り衝突することも度々あり

戦いに挑んだのです。その前夜には硬式野球部OBのみならず寮OBや学友などに一斉送信で「君がいなくとも会社はつぶれない。しかし君の応援が無ければ北大は敗れるかもしれない。来たれ、神宮11時半！」と檄文を送りました。さて、対する相手はプロ野球選手を数多く輩出している強豪私学の八戸大学。エースはそれまでリーグ戦で48イニング連続無失点という塩見貴洋（楽天）で、4番はNPB年間最多安打214本の記録を持つ秋山翔吾（西武）という強力チームです。まともに戦つたのでは勝ち目無し、コールドスコアでコテンパンに叩きのめされるだろうというのが大方の予想でした。もしも勝機があるならば小兵の力士が前みつを取り頭を下げて粘るような戦い、つまり3失点以内の接戦に持ち込むしかありません。そして野球の実力以外の何か、がどうしても必要でした。

その日、まず相手選手たちを震え上がらせたのはスタンドからの圧倒的なパワーでした。応援団の指揮のもと怒涛のような声援が飛び、地方大学同士の戦いにもかかわらず神宮球場は北大一色となつたのです。八戸大監督はその迫力に圧倒され「完全アウェイだ」とうめく。そんな焦りや恐怖が相手選手たちのミスを誘い、逆に



審判指導 講義の様子

たのかもしれない。札幌六自体のレベルがアップし、我が野球部は二部落ちしましたが、ここでは圧倒的強さで来春には一部復帰します。これからは崖っぷちで救ってくれる「野球以外の何かの力」が我が校にはあるのは頼もしい限りです。応援団とは「友たれ、永く友たれ」と硬式野球部一同、強く願っています。

3 諦めない心

さて、最後はこの仕事が好きだ、という情熱の継続です。向いていなくても続けられるのが本当に好きなことであり、才能です。そしてできないのではなく、実はできるまでやり続けたいのです。成功の反対語は失敗ではなく、諦めること。諦めた時に失敗が確定します。この努力し続ける才能を磨けば超一流にはなれずとも、必ずやその世界で飯が食えるはず。私が本心に心の底から野球が好きだと思えるようになったのは、何度も何度も「夢」への挑戦が叶わなかったからです。幼少の頃の夢はプロ野球選手になることでした。ただ体格だけは良いものの運動能力、野球センスといった点ではとても自慢できるレベルではありませんでした。高校での甲子園などはるか彼方の夢。次に東京六大学での野球を目指しました。が受験にも失敗。浪人してやっと

入れた北大では補欠で、4年生の時にはケガでベンチにも入れませんでした。それでも野球への夢断ちがたくプロ野球記者になろうと入社した日刊スポーツでの配属は販売局。心機一転で運よくプロ野球審判になれましたが、一軍に昇格するのに8年もかかり、その後一度々二軍落ちもしました。それでも腐ることなく、諦めることなく、上達への努力を続けられたのは「人生は肯定だ！」という言葉に支えられたからです。今を否定しなければ必ずや道は開ける、そう愚直に信じ切ったからです。そして今日頑張れば明日は変わる、と思いつけたからです。

人生はよくマラソンにたとえられますが、一番大切なのはゴールすることです。人との競争ではありません。そのためには絶対に後ろを振り返ってはダメ。過去の栄光や後悔など、この先に何の役にも立ちません。変えることもできません。でも、未来ならば今を頑張ればいかにようにもなるのです。

詩人の寺山修司氏が元祖「怪物」と呼ばれたハイセイコーに捧げた詩にこんな一節がある



「全球入魂!プロ野球審判の真実」表紙

ります。「振り向くな、振り向くな、後ろには夢がない」。これは今も我が人生訓です。

◇「著書」のご紹介

一昨年5月に新作「全球入魂!プロ野球審判の真実」(北海道新聞社)を上梓しました。前作「プロ野球審判 ジャッジの舞台裏」が現役編とするならばこれは指導員編です。若手審判の育成や彼らとの葛藤、これからの審判のあるべき姿、リクエスト制度の是非、健全なる野球発展のための野球界への提言、それらへのあふれる思いをぶつけました。前作に負けず劣らずの「取扱注意」の熱さを持つ一冊です。各章の間には家族や北大の思い出、他のスポーツへの思いなどをしたためたコラムも載せています。ウリ文句は「つまらなかったら返金いたします!」。ホンマ? 知らんけど。

風景との対話

風景画は楽しい

清水全生 (S45E)

現役をリタイア後、東京黒百合会に所属して8年になります。会では展覧会、合評会等で会員同士がお互いの絵について意見交換をする機会があり、絵の巧い下手よりもお互いの絵を認め合い、自由な雰囲気です。

私は、教養時代に美術部黒百合会に入部し初めて油絵の風景画を始めました。しかし、当時は興味の対象が種々変わり、特にスキー、麻雀等に忙しく、肝心の絵の方は熱心ではありませんでした。

その結果、初めての展覧会では稚拙な絵の出品となり恥ずかしい記憶が残りました。それ以来、徐々に絵から離れ、学部移行後、社会に出ても伝統ある美術部黒百合会に在籍していたことは封印していました。そんな落ちこぼれ部員でしたが、リタイア後、紆余曲折を経て絵を再開しています。

今は、絵の魅力に嵌まり、日常生活が絵を中心に廻っています。会の先輩達の指導、助言も得られ、若い時代に失ったものを取り戻そうと専念しています。東京黒百合会には先輩達が苦労を重ね、昭和31年の第1回東京黒百合展から他大学のOB会と比べても例が



作品B:「谷川岳遠望」油彩

写生会では各人が昼間にスケッチ、彩色した絵を夕食後に持ち寄り、酒とつまみ付きで意見交換する合評会をやります。楽しい絵の議論は白熱し、夜が更けることを忘れるのが常です。

昼間、同じ場所と同じ風景を見ていても、いつも各人の異なる絵が出てきて感動します。同じ風景でも描く人の目線、構図、遠近感の取り方等により違いがありますが、その場の空気感も含めて、風景の何をどの様に受け止めたか、各人の感受性の違い、豊かさを気付かせてくれます。と同時に絵が巧い下手は関係ないことも分かります。

無く歴史を継続しています。現在は、コロナ禍で一時中断していますが、毎年春、秋開催の展覧会等が主な行事です。同時期に年2回の一泊写生会を継続しています。私はこの写生会の幹事を先輩から引き継ぎ、関東近郊で15人前後の参加者と共にスケッチ旅行を企画し、楽しんでいます。風景画を描く人はいつも題材探しに苦労しています。私は、足腰の元気な内に海、山、川等の絵になる風景を探し、色々な場所に出かけたいと思っています。

この写生会及び合評会は、各人の絵をお互いに対話しながら興味深く眺められ、風景画がより一層、楽しいと感じられる一時です。皆さんには、巧い下手を気にすることのなく自由に絵が描ける写生会の参加及び東京黒百合会への入会をお待ちしています。コロナ禍で過去2年間、会の方々の活動は中止でしたが、来春には、再開できることを期待しています。



作品A:「第2試験農場」油彩

札幌農学同窓会 東京支部共催講演会

札幌農学同窓会東京支部副理事長 総務・会計委員長
坂倉 雅夫 (S48・農工)

気象キャスター 齊田季実治氏を迎えて



齊田季実治氏 (H12・水産)

来ました。

今回も農学同窓会が引き続き当番幹事を務め、2020年に講師をお願いしていた、気象予報士の齊田季実治(さいたきみはる)氏に引き続きお願いしました。

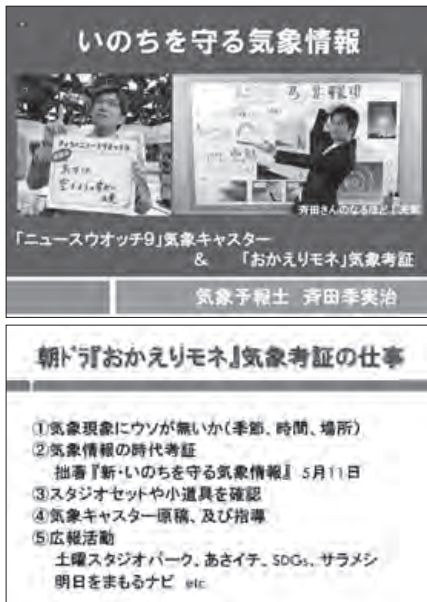
一般社団法人札幌農学同窓会東京支部では年間事業活動の一環として、北海道大学獣医学部同窓会関東支部(鷺野弘明支部長・1976年獣医学部卒)との共催により、毎年秋に講演会を開催しています。両同窓会が1年おきに当番幹事を交代し、2020年が農学同窓会の当番でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、例年のような対面方式での開催は中止せざるを得ませんでした。かと言ってオンライン方式にはまだ不慣れであったので、これによる開催も断念し1年延期して、2021年10月30日(土)にオンライン(Zoom)方式により、北海道大学東京同窓会の後援を得て、2年越しに開催することが出

て、2年越しに開催することが出ました。今回も農学同窓会が引き続き当番幹事を務め、2020年に講師をお願いしていた、気象予報士の齊田季実治(さいたきみはる)氏に引き続きお願いしました。齊田氏は熊本県立済々黉高校から、北海道大学水産学部水産海洋科学科に進学して海洋気象学を専攻し、在学中に気象予報士の資格を取得して2000年に卒業されました。水産学部では気象予報士の資格取得は初めてのことで、この時は地元函館新聞から取材を受け、記事が掲載されたそうです。氏は報道記者として台風、地震の被害をヘリコプターから中継するなど自然災害現場を数多く取材。被害を伝えるだけでなく、未然に防ぎたいとの思いから気象の専門家の道へ。2006年からNHKで気象キャスターを務め、現在は「ニュースウオッチ9」に出演中。2021年には連続テレビ小説「おかえりモネ」の気象考証を担当した。2018年に株式会社ヒンメル・コンサルティング

を設立し、代表取締役を務める。ARABO 宇宙天気プロジェクトマネージャ、その他防災士、危機管理士1級、星空案内人(星のソムリエ)、JLA認定ライフセーバー、日本気象学会会員、日本災害情報学会会員、日本危機管理防災学会会員を務めている。講演は『いのちを守る気象情報』の演題でお話をしていただきました。2021年に真鍋淑郎氏のノーベル物理学賞受章もあり、現在世界が大きな注目を寄せている、地球温暖化による気候変動にも関連する内容で、正にタイムリーな講演でした。

な仕事(次ページ写真下)をしていました。おかえりモネに出てくる気象現象の解説をする動画「齊田さんのなるほど!天気」をNHKのホームページやYouTubeにも流しています。

FRONTIER 2022/02/20



講演会の資料表紙(写真上)と内容の一部(写真下)

- ①気象現象にウソが無い(季節、時間、場所)
- ②気象情報の時代考証
拙著『新・いのちを守る気象情報』5月11日
- ③スタジオセットや小道具を確認
- ④気象キャスター原稿、及び指導
- ⑤広報活動
土曜スタジオパーク、あさイチ、SDGs、サラメシ明日をまもるナビ etc

害ごとの特徴を理解し
て欲しい。

◆気象庁のHPが2021年2月に大幅にリニューアルされています。自分が住んでいる場所を登録して使いこなすことが大事です。

◆線状降水帯による顕著な大雨の情報というのは、予測ではなく実際に発生して大雨になっていきますから気をつけてください、という情報であり、情報が遅いので、先程の「キケル」の情報を活かすことが大事です。

◆防災行動計画「タイムライン」とは、いつ、だれが、どのように、何をするか、あらかじめ決めておくことで、数年前から、「マイタイムライン」という取り組みが進んでいる。気象情報が出たときに段階に応じて、どう対応するかを予め家族で細かく決めておくことが、災害から身を守るのに大事です。国土交通省、東京都のホームページから、タイムライン作成キットが無料でダウンロードできるので、この機会にやっておいて欲しい。

命を守るための行動に気象情報を活かして欲しい。

◆気象予報士試験の範囲には地震、火山は含まれていないが、災害から身を守るという意味では、同じように行動する必要がある。過去の取材経験を活かして私の著書に書いている。また、宇宙利用が急速に進んでいるので、宇宙気象が重要になってきていて、広めるには宇宙気象の気象キャスターがいた方が良さだろうと最近活動を始めています。

◆以上述べてきたことを今後参考にして、実際の避難行動を考えていただきたい。

町村ごとや数日前の天気予報で災害の危険性を知ることが出来るようになって来ています。台風進路予報の精度も上がっています。

◆雨量データから災害発生の危険度を表す指数を算出し、危険度を地図上に色分けして表示した、災害の「危険度分布」(キケル)という名前が2021年度から付いた。)が有り、誰でもネットで見られるようになってるので活用すれば災害時に役に立ちます。

◆アンケート調査では、ハザードマップを見て自宅周辺をよく確認している人が多いので、確認からさらに進めて、先に逃げて周りに声を掛ける「率先避難者」を増やすようにしたい。

◆自分は大丈夫だと思いたいという防災心理学という「正常性バイアス」があり、これを突破するのは難しく、複数の情報に接して初めて人は動くものです。災害が起き易い日本では、いざれ順番に災害は廻ってくるものとして備えておいてください。

◆「浸水害」は局地的に降る短時間の大雨で発生するので低地を避ける。「洪水害」は下流の離れた所も、時間差で危険になるので雨が止んでも油断しない、など災害

約1時間の講演の後15分ほどの質問の時間を設け、Zoomのチャット機能を使い、その後約30分の懇親会の中でも活発な質問の遣り取りが展開されました。懇親会の途中、参加者各自が用意した飲み物(アルコールも可)で乾杯し、予定時刻を少し過ぎたところで、参加者全員が画面をONにして、オンライン特有の、画面上での拍手で齊田氏にお礼をしてお開きとなりました。

FRONTIER 2022/02/20

◆避難行動も日頃の訓練や、事前避難場所を決めておくこと、どの情報が出たら避難するかなど、

◆「緊急安全確保」となります。

◆雨による「土砂災害」はそれまでに降った雨の量の影響が長引く。「浸水害」は局地的に降る短時間の大雨で発生するので低地を避ける。「洪水害」は下流の離れた所も、時間差で危険になるので雨が止んでも油断しない、など災害

◆天気予報の情報が生かされて行動に移って初めて情報の意味がある。

◆「緊急安全確保」となります。

◆雨による「土砂災害」はそれまでに降った雨の量の影響が長引く。「浸水害」は局地的に降る短時間の大雨で発生するので低地を避ける。「洪水害」は下流の離れた所も、時間差で危険になるので雨が止んでも油断しない、など災害

FRONTIER 2022/02/20

北大発スタートアップの挑戦 社長と博士学生の2足の草鞋

◎起業の原点は北大での学び

私は大学院卒業から3年経った2020年6月にLetara株式会社を設立しました。このLetara株式会社は、学生時代に研究していたロケットの技術開発を社会実装するための会社です。

今、大学時代のことを振り返ると、自分がこの会社を立ち上げた原点にたどり着きます。

当時の私は医療系、宇宙系の2つの研究分野に興味を持っていました。高校時代は部活や受験勉強に必死で将来のことをじっくり考える余裕がなかったため、大学入学後に納得して自分の専門や所属



防爆実験棟での実験中

する学部・学科を選択できる入試方式(総合入試)を採用している、北大に魅力を感じて北大への入学を決めました。

入学後、学部紹介で工学部の先話の話を聞く機会がありました。難しい流体力学の方程式を説明する先生の姿がとても印象的でした。その時「工学部で学ぶ経験をものづくりに活かせば、自分が生きていく間に社会貢献ができる」と感じ、第一志望の工学部宇宙環境システム工学研究室で研究を開始しました。

大学時代の研究テーマは「ハイブリッドロケットにおけるノズル浸食現象の解明」です。それまで研究室では、「CANUI型ハイブリッドロケット」と呼ばれるロケット燃料の研究が主として行われていました。ロケットノズルの研究は私が初めてで、右も左もわからない中、言われるがまま必死にネジを回していた記憶があります。データを集めたのはよかつたものの、プログラムをガチャガチャいじって、誤差

200%という解析結果を出したこともありました。研究の「け」の字も分らない状態で、しかも新しいテーマだったので、想定外の誤差が出てしまい、パニックになりながら研究を進めていたことを思い出します。

大学時代は研究も充実していましたが、大学生らしくサークル活動やアルバイトにも勤しんでいました。特に、居酒屋のアルバイトでは、アルバイトリーダーを務め、物品の発注、売上管理、シフト作成等も何でもこなすスーパーアルバイトでした。その経験が今では貴重な財産になっています。

◎留学経験によって養われた Ambitious 精神

大学院では半年間ドイツにあるミュンヘン工科大学への留学も経験しました。留学中は年齢に対する考え方が全く違ったものになりました。日本では大学でも年齢の近い同級生が多くいます。しかし、ドイツの大学には20代後半の同級生もいれば、学びを深めたいとい



Letara株式会社 代表取締役
平井 翔大 (H27・工、H29・修士)

うことで2つ目の大学としてキャリアを積んでいる方、勉強がしたいと言って会社を辞めて留学している日本人の方など、自ら学ぶ意欲を持ち、いつでも挑戦できる環境がそこにありました。一緒に会社を立ち上げたロンドンには、社会人経験の時に感じた「世界中の人々の生活に必要なインフラを、宇宙の衛星から提供したい」という想いを叶えるために、北海道大学に大学院生として入学し、現在は特任助教として北大で働きながら共同代表もやっています。彼の挑戦する姿勢は、とても尊敬しています。

今は私も彼と同じ研究室で博士学生をしながら、北大発スタートアップの社長という2足の草鞋を履いた生活をしています。実は、私がエンジニアとして大手企業に就職し、毎日忙しく働いていた時、彼からずっと、研究室の話や學術



自分の価値観が変わった留学経験

論文を書くための相談などを受けていました。最後は彼の熱意に負けて北海道に戻り、彼と一緒に大学での研究活動を続けるために、博士学生として研究室に戻ると同時に、事業化に向けてLetara株式会社を設立しました。

◎北大OB・OGs & 産学連携部署のサポート

会社を作って1年が経った今、この生活はとても充実したものに なっています。もちろん起業した直後は右も左もわからず、北大の支援の受け方も全く分かっていませんでした。誰に相談したらいいのかわからなかった時は本当に孤独でした。ただ、会社設立のタイミングと、北大のスタートアップ支援の部署が立ち上がるタイミングが同じだったことで、産学連携の部門の方に支援していただけるようになりました。研究室の研究成果を事業化したいという想

いだけで会社を設立したため、ビジネスモデルや事業計画を考えるとところから並走してもらいました。特に2021年12月に行われた内閣府主催の宇宙を活用したビジネスアイデアコンテスト「S-Booster2021」では、このコンテストの申請段階からサポートしてもらいました。一次選抜の書類審査、二次選抜のオンラインプレゼンテーションを経て、最後は200チームほどの中から12組のファイナリストに選ばれ、大きな舞台に立つ機会を頂戴しました。この最終プレゼンに向けて産学連携の支援を活用しました。特に北大の産学連携が事務局となっている北大OB・OGの専門家組織「北大プロフェッショナルズ」(※)の支援のおかげで、コンテスト前に



会社として初めての大きなプレゼンの舞台「S-Booster2021」

事業計画のブラッシュアップ等ができて、発表資料を仕上げることでできて、コンテストではアジア・オセアニア賞という大きな賞を受賞することができました。

この賞をきっかけに、事業化へ向けたサポートをしたいという連絡が多数あり、会社にとっても大きな1歩となりました。

◎自分たちの会社で実現させたい未来

今、会社を立ち上げて本当に良かったと感じています。正直会社を作るタイミングは早かったと思っています。しかし、大学の技術を事業化したいといっても、言葉だけでは本気度が伝わらない。会社があることで対外的な信用や、自



自分たちの技術での挑戦

分たちの熱意を伝えることができると感じています。これから会社を成長させるためには、まずは売上をしっかりと作ることを第1目標としています。そのためには研究開発も進めなければならぬし、宇宙実証も行わなければならないです。簡単なことではないですが、共同代表のロンドンと一緒に必ず実現できると考えています。

いつか子どもの頃から夢見ていた宇宙飛行士への憧れを、自分の作ったロケットで叶えたいと思っています。宇宙へは宇宙飛行士しか行けないという世の中のリミッターを外して、誰もが自由に宇宙へ行く時代が来ることを、自分たちの技術で実現させたいと思っています。そして、宇宙という空間から地球眺めて、地球は尊い存在だと実感したいと思います。

※北大プロフェッショナルズとは

北大卒業の実績ある士業の方(弁護士・会計士・税理士等)を中心に、北大発のスタートアップを支援するために作られた組織です。事務局は北海道大学産学・地域協働推進機構 北大スタートアップ事務局内にあります。北大プロフェッショナルズに関するお問い合わせは、北大スタートアップ事務局(担当千脇)までお願いいたします。

問い合わせ:
startup@mcip.hokudai.ac.jp



現場監督時代に培った ambitious 付加価値の高い仕事で貢献したい

戸田建設株式会社
代表取締役社長
大谷清介さん
(S57工建築)



Profile 1958年生まれ。1982年3月に北海道大学工学部建築工学科(現在の環境社会工学科建築都市コース)を卒業後、同年4月に戸田建設へ入社。一貫して東京支店建築工事事務部で経験を積み、建築施工の第一線に携わる。作業所長として大丸有地区の大型プロジェクトを数多く手がけたのち、千葉支店長、関東支店長、管理本部執務などを歴任。2021年4月より現職に就く。大切にしていることは「立場に関係なく、会社に貢献する姿勢」。

◇ハンドボール部入部、ゴールキーパーになる

わたしは生まれも育ちも札幌ですが、叔父が大谷家のルーツを調べた著書によれば、先祖は安芸広島藩の浅野家に仕える武士だったそうです。明治17年に曾祖父親子4人が10数の親族と一緒に北海道の北広島村(現・北広島市)に入植しており、北広島市内には現在も親戚が暮らしています。

北海道教育大学札幌校の附属小学校の教師をしていた叔父の勧めもあり、二人兄弟の兄とともに附属小学校・中学校で学び、教育面では恵まれていたと思います。その後、札幌南高、北大に進みました。

母親は高校の時に陸上選手として国体に出場したこともあり、小さい頃からスポーツに親しみました。高校の時に国鉄に勤務していた父親の転勤で下宿生活となり、バスケットボール部を途中で辞めているので、北大に入学したら体育会の球技系クラブに入ることを決めていました。

バスケットボール部に入部するつもりで体育館に行き、体育会本部の人に相談したところ、北海道地区の中で強い運動部はハンドボール部で、インカレに行きたいならハンドボール部がいいと教えられ、その足でハンドボール部に入部しました。

高校でもハンドボール部の練習を見ていたので、てっきりフィールドプレーヤーになるつもりでしたが、「ハンドボールでは一番運動神経がいい選手がキーパーを任される」という先輩の言葉に騙されて、まんまとキーパーにさせられてしまいました(笑)。

とはいえ2年生の時のインカレにキーパーとして出場し、3年生の北海道大学リーグでは春季と秋季の大会でベスト7、さらにはMVPに選ばれたのはいい思い出です。また昨年、現役チームがインカレに出場し、自分が初めてインカレで対戦した福岡大学と戦っている様子をYouTubeで見ても懐かしく思いました。

◇教養課程はほぼ「優」建築学科に進む

ハンドボール部の練習は週5日で、公式戦ごとに年3回ほど合宿を行っていました。部活で学業が疎かにならないようにと、教養課程の履修科目の選択時には、単位がとりやすい講義を先輩に教えてもらったり、鬼仏表などを参考に講義を選択しましたが、どの講義もとても面白く真面目に授業に出席したので、結果的には履修した講義はほとんど「優」でした。

当時は、教養課程の成績で移行する学部学科が選べる仕組みでした。人気があり移行成績の高



昭和54年全国日本インカレ(福岡)左端は本人



かったところは理学部の昆虫学や獣医、薬学部で、希望すればどこでも移行できたのですが、建築の道に進むつもりで北大に入るので、予定通り建築学科に移りました。

建築に興味を持ったのは中学生の時です。小さい頃から絵を描くのが好きで、将来は画家になりたいと先生に相談した時に勧められたのが建築です。「この子は画家で食べていけないほどではない」と考えてくれた先生に感謝です(笑)。

ぶほどに実際の建築物には法規や機能上の制約があり、思ったままの自由な形の建物を造ることはできないことが分ってきました。やがてデザインや設計への興味が薄れ、その分、数字できっちり答えを導く建築手法に魅力を感じるようになってきました。

かつて自宅の建て替えがあった時、家が完成していく様子を見て、大工さんの話を聞いて、建物が造られる工程や施工に面白さを感じたことを思い出し、コンクリート材料の講座に進むことを決めました。今でも材料学講座(第3講座)の「3講座」の集まりに参加しており、昨年は戸田建設社長として挨拶させていただきました。

当時は第3講座の学生が毎年、戸田建設に入社していたこともあり、教授が勧めるままに戸田建設に入社しました。

◇戸田建設入社、少しずつ大きな現場に

入社後、いくつか小さな現場の監督を2〜3年経験した後に千葉県浦安市のリゾートホテルの現場に配属となり、地中に杭を打つ仕事の担当になりました。その現場は建設費で70億円ほどの規模で、会社で最大規模のプロジェクトでした。建設場所は海の埋め立て地なので、地下80mのコンクリート

製の杭が海水の塩に侵されないことが絶対条件です。当時、技術研究所にいた大学の先輩にアドバイスしてもらいながら、無事に与えられた役目を果たしました。

この大規模プロジェクトの大役をやり遂げて、大学で学んできたことを活かして、技術的な知見や科学的データに基づいた付加価値の高い仕事で力を発揮することが、より会社に貢献できることになるように思いました。

入社前、希望する勤務先の一つとして東京を選んだのは、都庁の新庁舎建設に携わりたいと考えていたからなのですが、浦安の現場の次に配属されたのは、その都庁の現場でした。

有楽町にあった旧都庁庁舎は、かつて戸田建設が施工したものでしたが、新宿に移転する新庁舎建設は、多数のゼネコンが参加する国家プロジェクト級の規模で、戸田建設は都議会議事堂の施工を8社のジョイントベンチャーの1社として受け持ちました。設計監理を担当する丹下都市建築設計事務所との仕事は、意匠的にも学ぶことが多い現場となり、いい実績を積み上げることができました。

それ以降、会社が受注した最大規模の現場に配属されるようになり、「東京都健康プラザハイジア」「昭和大学病院中央棟」「昭和大学



学横浜市北部病院」などの施工に携わり、2001年からは高さ100mを超える超高層ビルの現場に就きました。

大型プロジェクトの現場所長を経験

東京駅丸の内旧国鉄本社ビル跡地の再開発事業で建てられた「丸の内オアゾ（丸の内北口ビル）」（竣工2004年）では副所長（後に所長）として、「シャングリ・ラホテル東京」が入る丸の内1丁目の「丸の内トラストタワー本館」（竣工2008年）では所長として、そして、「星のや東京」が入る大手町1丁目の「大手町フィナンシャルシティグランキューブ」（竣工2016年）でも所長として携わりました。

グランキューブの仕事は、新築工事だけで工事費約1000億、工期2年の超大型のプロジェクトでした。丸の内オアゾの竣工後に現場から離れ、東京支店工事部門の責任者でありましたが、この仕事が決まった時に大手町の現場に戻され、もう一度、現場の指揮をとることになりました。結果的に最後の作業所長の仕事になりました。

このプロジェクトには受注前から関わり、コストを積算し工期スケジュールも立案しました。大手設するには浮体式の方が有利であることや、設備の耐久性（約20年）を考慮して撤去・解体までを想定するならば、浮体式の方が将来的に可能性が高いと考えています。

再生可能エネルギーによる日本の電力供給を20%以上にするには、海上に風力発電設備を着々と建設する必要があります。そのトータル事業規模は今後数10（数100兆円になるでしょう。戸田建設だけでできるスケールではありませんが、この分野のトップランナーとして牽引する会社でありたいと考えています。

そして、今まさに戸田建設発祥の地・東京都中央区京橋に新本社ビルを建設中です。このビルは、若手アーティストの支援やアートに関する情報発信拠点となり、芸術文化都市としての東京の魅力を向上させることをテーマに、隣接企業と共同で計画したものです。2016年に東京都より都市再生特別地区に認定され、1期工事として2019年に「ミュージアムタワー京橋」が竣工し、「アーティストゾーン美術館（旧ブリヂストン美術館）」が

戸田建設創業140年記念誌「TODA140th」タブロイド判を紹介



*1 カーボンマイナス：施設のライフサイクル（施工時や廃棄時に加え、運用時も含む）全体のCO2排出量（プラス要因）を再生可能エネルギーの利用や木材・樹木の活用による低減効果（マイナス要因）によって実質的にマイナスにする考え方

*2 ZEB Ready（ゼブ・レディ）：再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合する建築物

環境ソリューションユニットやDX推進室を組織するなど体制も整備し、会社の新たな成長戦略の構築を進めております。土木や建築の分野に関わらずフロントティアの気概を持った北大生に入社してもらいたいですね!!

2020年1月にオープンしました。2期工事として自社の新本社ビルが2024年の竣工を目指しています。

地下3階地上28階の新本社ビルは、鉄筋鉄骨コンクリート造の壁厚約1.7mの連層耐震壁を建物中央のエレベータ周囲に配置し、さらに地下の免震層の機能が加わることで（コアオール免震構造）、地震の時には普通の免震ビルの半分程度の揺れに抑えられ、世界一の耐震ビルになるものと考

えています。世界は今、カーボンニュートラルに大きく舵を切つて進んでいます。戸田建設は2010年に環境省のエコ・ファースト企業の認定を受けるなど、早くから環境配慮に着目し実践してきました。建設現場でのCO2排出量削減の取り組み、カーボンニュートラルに向けたビジネスの布石も打つてきました。昨年8月、筑波技術研究所の「グリーンオフィス棟」がカーボンマイナス*1に向けた運用を開始し、2024年竣工のZEB Ready*2の環境性能を有する新本社ビルは、付加価値の高いオフィスビルとして、戸田グループの成長戦略の一翼を担います。また、先ほどの風力発電事業は2007年にスタートした事業であり、この再生可能エネルギーと生活圏の機能集中

による地方創生構想「スマートエネルギーコンプレックスシティ構想」も地方自治体と共に推進しています。

戸田建設はこれまで、おもに土木や建設の分野においてお客様に寄り添い、課題解決に取り組んできましたが、これからは仕事のフィールドを多方面に広げ、ビジネスを創出していきます。そのためには新たな価値やサービスを創造し、プロジェクトを推進する多様な人材を必要としています。

10年後の創業150年を見据えた「未来ビジョンCX150」を策定し、「多様性を力に」をテーマに、「価値のゲートキーパー」として、協創社会を実現する」を目標に掲げています。ゲートキーパーという言葉が分かりにくいと策定メンバーに言われましたが、ゴールキーパー出身なのでこのワードにはどうしてもこだわりました（笑）。

「多様性」に恵まれた北大スピリッツに期待

ゼネコンとの激しい競争に勝ち、戸田建設が受注できましたが、工期はわずか2年間です。限られた期間での膨大な資材と人の調達は予想以上に大変でした。大規模な現場といわれるところでも一日何100人も作業員を配置するものですが、グランキューブの場合、一日に最大3500人の作業員を入れないと工期に間に合いません。現場の休みは大みそかと元日の2日だけで、24時間交代制で進めました。

賃料収入が事業のベースになるオフィスビルなどは、とりわけ短工期が求められ、施工指名を得るための工期競争はしのぎを削りまくるものですが、「働き方改革」が世間を賑わす前だったからできたスケジュールだと思えます。とりわけ地下1500mからの天然温泉（大手町温泉）の掘削工事は、昼夜を問わず作業しても4・5か月要するものでしたので、全体の工程調整には細心の注意を払いました。

30年近い現場での仕事を振り返ると、現場ごとの苦労話は尽きません。わたしたちのようなゼネコンの現場社員が最初にぶつかる壁は、現場で指揮する相手との年齢のギャップです。現場経験のない

戸田建設の将来を作るさまざまな成長戦略

若者が、自分の父親や大学の先生よりも年上の職人さんに指示し、決められた仕上がりどスケジュールを監督するのは、とてもハードルが高いことでした。

また、建設場のことにおいても、敷地が狭くて十分な資材の搬入導線がないこともあり、作業の搬入口に故意に車を駐車されて妨害されたこともありました。

一方、会社が受注するプロジェクトの規模は年々大きく、建物は高く、施工内容は高度になり、技術的な難しさは増していきまし

で出来たよく、見かける社史の体裁ではなく読み物風に仕上げたいです。若い方たちにも今の戸田建設のことを理解してもらいたいと思います。丸の内オアゾの所長をしていた時、現場の運営方針に「施工美の追求」というテーマを掲げたことがあります。建設現場は概して、汚いものというイメージを持たれることが多いのですが、わたしは決してそうではないと思っています。高層ビル建設のタワークレーンのメカニカルな形状や正確な動きは美しいと思いますし、トンネルを造る際のシールドの立て坑の様子は、宇宙ステーションの内部のように感じます。そうした現場の美しさを通して建設業の魅力伝えたいと思います。いくつも大きな写真を掲載しています。

現在、長崎県五島列島沖で浮体式洋上風力発電のプロジェクトを進め、2年後に8基の発電設備の完成を目指しています。これは戸田建設が筆頭となり、ENOS、大阪ガス、関西電力、EPEX、中部電力の6社で構成するコンソーシアムが行う事業で、商用では国内初の浮体式洋上風力によるウインドファームになります。

洋上の風力発電には着床式と浮体式がありますが、沿岸から離れた風力を得やすい場所に設備を建

多磨霊園墓参

今年も有志による開催

クラーク遺徳顕彰・墓参委員会 浅田清（H1・歯）

毎年、北大東京同窓会では新渡戸稲造氏の命日に当たる10月15日の近くの日曜日に多磨霊園の墓参を開催しています。2021年の開催は昨年と同じように主催を北

大東京同窓会ではなく、多磨霊園墓参を支持される有志という形で行われました。2021年の開催は10月10日、参加されたのは16名でした。横田浩北大東京同窓会会長か

らも参加したいという意向は伺っていましたが、残念ながら日程が合わず出席していただけでした。集合時間の午前10時30分頃は、天気予報では曇りでしたが、生憎の雨降りとなってしまったので、松乃石材店さんで空模様を見ながら、しばらくみんなで歓談しました。

札幌市から参加された石川満壽夫さんより「伊福部昭顕彰事業」の話の伺いました。伊福部昭氏は交響曲で顕著な実績を残し、特に「ゴジラ」のテーマ曲を作曲したことが有名です。北大にもこのような偉大な先輩がいることを北大の卒業生には広く知って欲しいと訴えられました。

午前11時頃には雨も止み、みんなで新渡戸稲造の坐像に向かいました。坐像に着くと関口先輩がひよっこり現れました。坐像を清掃し皆で都弥生を歌い、集合写真撮影しました。次に新渡戸稲造氏のお墓に移動しました。お墓は清掃されて綺麗になっていましたのでお花を取り替え、都弥生を歌いました。次に内村鑑三氏のお墓に移動し、長女のルツ子さんや長男の内村祐之氏のお墓も一緒に清掃を行いました。ここでも都弥生を歌い集合写真を撮影しました。その後、有島武郎氏のお墓と廣井勇氏のお墓に移動してそれ



都弥生 合唱



新渡戸稲造座像の前で



内村鑑三の墓



有島武郎の墓



廣井勇の墓

【参加者のみなさま】
樋口正明・法34、松田昌幸・理36、青戸哲二・理37、関口光雄・工43、平田更一・理44、森輝男・工44、石川満壽夫・工46、村上幸夫・理48、坂倉雅夫・農48、高津俊司・工48、細井眞澄・工49、石田恵・歯50、佐藤文康・歯58、松浦永治・法H8、池田雄二・法H18、浅田清・歯H1

（敬称略・順不同）

みんなで「つくる」を大切に

北海道日建設計は、日建設計のグループ会社として1956年に誕生しました。これまで、北海道の人と風土に根ざした「生活環境や社会環境づくり」を目的に、建物をつくるだけでなく、多くの人々との交流をもとに、みんなで「つくる」を実践してきました。これからも、環境に配慮した美しい景観の創出をはじめ、人々が「生きる場」としての街づくり・空間づくりに取り組んでいきます。

代表取締役社長 久保田 克己（工・昭59・建）

NIKKEN
EXPERIENCE, INTEGRATED

株式会社 北海道日建設計

札幌市中央区大通西8-2 住友商事・フカミヤ大通ビル
TEL: 011-241-9530 FAX: 011-261-7673
URL: <http://www.h-nikken.co.jp>

東京基準より北海道基準、北の夢。

ぷらう

代表取締役社長 石川 裕一

株式会社 ぷらう

〒060-0063

北海道札幌市中央区南三条西4丁目12-1 アルシュビル8階

TEL: 011-219-2223 FAX: 011-219-2885

ベトナム行ききのフロンティア

●北大恵迪寮での生活
私が北大に入学したのは1981年でしたが、当時学生寮は現在の恵迪寮ではなく、木造建ての旧恵迪寮の最後の2年でありました。大多数の寮生は旧恵迪寮の閉寮に反対でしたが、現在の恵迪寮に移るのは時間の問題でしたので、最後に寮の仲間達と想い出を作ろうと3つの部屋の壁をくり抜いて15人の合同部屋を仲間づくりしました。(旧恵迪寮は一部屋5人部屋が通常でした)



北大寮時代「応援団・寮歌普及委員会合同部屋」メンバーの猛者たち

この部屋の名前は「応援団・寮歌普及委員会合同部屋」。恵迪寮を知っている方ですと部屋の名前が想像がつくと思いますが、かなりの曲者の猛者たちの集まりでした。この部屋には毎晩誰かが酔っ払って帰ってきてストームが始まったり、旅人が住み着いたりとかいつもなにか事件が起こるような強烈な部屋でしたが、ここでの貴重な生活が自分の人生観に大きく影響を与えたと思います。

●ベトナム行きへの決心

学部では農学部の農業工学科(当時)に進みました。(今では生物環境工学科と言う先端的なイメージの名前に変わ



(本人左)

わっています。農学部在学中に政府開発援助ODAで発展途上国の経済発展に貢献できる仕事がしたいとの思いが強くなり、開発コンサルタントの日本工営という会社に1986年に就職しました。日本工営には通算で約20年勤務したのですが、あるきっかけで2002年頃に仕事でベトナムに出張し、活気あふれるベトナムの街に感激に近い衝撃を受けました。ベトナムから日本に戻ってからは、東京でのサラリーマン生活にマンネリと疲れも感じていたので、ベトナムの新天地で新たな人生をチャレンジしたいという気持ちで日に日に強くなっていきました。

一方、そうは言っても当時自分はずでに42歳。コネも資金も若さもない状態でベトナムに新たな仕事を見つけるのはかなり厳しい。そのため周りの友人からは「いい年して長年勤めた会社を辞めて、ベトナムに行くなんて無謀なチャレンジはやめたほうがいい」と言わ



HOYA GLASS DISK VIETNAM LTD.
上月 浩 (S61農・農工)

れました。

自分も正直なところ不安だらけではありましたが、それでもベトナムに行けばなんとかなる(いや、なんとかしてみせる)と言う根拠のない自信で会社に退職願を提出し、ベトナム行ききの航空チケットを購入したのです。

●ベトナムでの仕事と想う事

ベトナムに旅立つ前のある日、人材紹介会社から「ハノイで日系企業が新規工場を立ち上げるので、人材を探している」との情報ももらい、面接に行きました。その会社がHOYAです。

HOYAはメガネレンズが一般に知られていますが、ガラスの精密産業として半導体や液晶パネ

ルに必要なガラス素材など様々な製品を手掛けています。会社の経営戦略が「小さな池(＝市場)の大きな魚(＝トップシェア)」を指しており、多くの製品で世界シェア1位となっています。

その新規工場とは、HOYAのHDD用ガラスディスク事業部が、事業拡大のためにベトナムに計画したもので、自分はその立ち上げからプロジェクトに参加することになりました。すでにタイとフィリピンに工場があり、ベトナム工場は3拠点目の工場でした。あまり知られていませんが、HDD用ガラスディスク生産は現在、HOYAが単独生産しており、世界シェア100%となっています。(ハードディスクにはデータ保存のための円盤状の基板素材というものが、アルミ基板とガラス基板の2種類があります。高性能なHDDにはガラス基板が使われているのですが、このガラス基板をHO



ベトナムとタイのHOYAスタッフ



HOYAベトナム工場

YAは世界シェア100%で単独生産しています)

ベトナム工場の立ち上げは2005年でした。タイ工場にベトナム人スタッフと一緒に研修に行き、工場運営に関わることを一から勉強しました。立ち上げた当時は工場がスタートしたばかりでしたので、HOYA内の他の工場と比べても生産性も品質も最低でしたが、一つずつ工場の問題解決を続けていこうとベトナム人スタッフと徹夜や休日出勤をして一緒に取り組みました。

この努力が実ったと思います。競合企業がHOYAベトナム工場の製品に品質も価格も太刀打ちできなくなった結果、現在ではHOYAベトナム工場が世界一かつシェア100%のHDDガラス基板製造工場となったのです。

ここで一つベトナム人との仕事について私の経験と考えを話したいと思います。ベトナム人は良く日本人に似て勤勉と言われます



HOYAベトナムの年一度のイベント

が、自分が見る限り日本人に似ているどころか、日本人以上に勤勉で仕事熱心です。ベトナム紹介のサイトなど見ると、「ベトナム人は勤勉だが、やることを明確に指示しないと仕事ができない」といったような記事を多く見かけます。しかし、これは大きな誤りと言いますか、ベトナム人との働き方、関係を構築する上で大きく間違っていると云えます。

ベトナム人は「明確に指示しないとやらない」のではなく、「自ら工夫させる権限と責任と信頼を与えられないからやらない」と言うのが正しいです。また、そのためには我々日本人自身がベトナム人スタッフに信頼を持ってもらえないとできません。この関係構築は一朝一夕ではできませんし、何か攻略マニュアルがあるわけ

はありませんが、これからベトナムで仕事をする方がおられましたらぜひ心に刻んでいてほしいことです。

●現在とこれからについて

現在、自分はベトナムで過ごして17年になりました。ベトナムでは長らく北大関係者とは関わりはなかったのですが、3年前に「ハノイエルム会」に参加させていただくようになり、北大ASEANオフィスの設立式の会合にも参加させていただきました。近頃はCOVIDの影響でハノイエルム会の皆さんともなかなか会うことができずしていましたが、これからも北大の皆さんと関わっていききたいと思っています。

また、私のベトナム人の嫁さんが現在ハノイのイオンモールでベトナム人子ども向けの日本語教室を運営しているのですが、そこで北大生の国際インターンシップの受け入れも行っていきます。COVIDで2021年度は学生の受け入れが行えませんでした。これからも若く未来のある北大生の支援を国際インターンシップを通してハノイで続けていきたいと思います。また、HOYAでの仕事や幼児向け教室の運営を通してベトナム人の成長と発展に貢献できればと考えています。

北大で育んだ気概 太平洋の橋とならん

私たちは1989年に北大に入学しました。現在はカナダのアルバータ州エドモントン市で暮らしており、カナダでの滞在も今年で16年目になりました。貴彦はアルバータ大学心理学部で教授職に、千苗は翻訳業に就いています。私たちは共に文学部行動科学科の卒業生なので、今回は共同で執筆させていただくことにしました。

● 北大進学の間際

千苗・私が北大を目指した理由は、母の存在が大きかったかと思えます。母は理数系が得意な学生で北大へ行きたくしたらしいのですが、家庭の事情でそれを果たすことができなかった、という話を小さな頃から聞かされてきました。ですから私が北大に入ったことを母はとても喜んでくれました。入学したのは文科I類、クラスは103で、夫とはこのクラスでお互い18才の時に知り合いました。貴彦・私が北大を目指したのは、

高校時代に所属した陸上部の合宿で北海道を訪問する機会があった際、北海道の雰囲気そして北大のキャンパスに魅了されたことにあります。関東圏の親元から離れた場所で自分を試すことにも魅力を感じていました。両親は、それまで北海道には縁が薄かったのですが、私が進学した後は北海道に旅行することが何よりの楽しみになりました。両親に寝台列車カシオペアの旅をプレゼントできてよかったです。

● 学部での研究テーマ

千苗・文Iから移行した先は文学部行動科学科社会行動科学科でした。指導教官だった関先生は、北海道南西沖地震が地域の人々に与えた影響について、フィールドワークしながら調査されていました。今になってみると、私もそうした地に足のついた研究をすべきだったと思います。当時はフランス人哲学者ジャン・ボードリヤールが書いた「消費社会の神話

と構造」という本に影響を受け、卒業論文では、彼の言うところの「現代の高度消費社会とは、商品のもつコードの構造的な差異の体系である」という考えを検証しました。同期には物事についてしっかり考えている人たちが多く、とてもよい環境で学ぶことができたと感じています。

貴彦・私の移行先は文学部行動科学科総合行動科学科でした。当時文Iから行動科学へ進む癖はわずか5人であり、私はぎりぎり5人目に入れました。行動科学科の人気のひとつは、北大の文系・理系の全学部から学生が集まることでした。私の所属した講座では、山岸先生・ラドフォード先生など国際的な研究者が集まって活発な議論を行っていました。英語文献を読み、英語で会話し、海外の一流専門誌への投稿・出版も当たり前でした。社会における個人々人のこの働きが大卒のテーマであり、学部生の私たちは、札幌市北区のゴミ出しマナーについて調査す



増田貴彦・千苗 [旧姓:田川] (H5・文)

● 北大卒業後

千苗・北大卒業後は住友重機械工業に入社したのですが、夫のアメリカ留学にあわせて退社しました。僅か5年の勤務でしたが、いろいろなることを学ばせていただきました。アメリカでは私自身もミシガン州立大学大学院でNPOについて学び修士号を取得しました。また、デトロイト日本語補習

源になっている気がします。

授業校で中高生に社会を教えるという経験もしました。その後札幌、カナダと移動する中で怒涛の子育て期に突入、10年程は子育ての渦中になりました。アルバータ州は保守的な土地柄と言われているのですが、アメリカ生まれの長男、日本生まれの次男、そしてカナダ生まれの長女もよく整備された公共の教育機関ですくすく育ちました。子育てが落ち着いてきた5年程前から翻訳の仕事を始め、ムハンマド・H・ザマン博士著「菌—人類と薬剤耐性菌の攻防史」を含め二冊の翻訳本を出版することができました。エドモントンにも日本語補習校があるので、教師としての仕事も続けています。

● 部活動やサークル活動

千苗・部活動は基礎スキー部に入部しました。この部ではゲレンデで滑る他、20キロの装備を背負って旭岳や空沼岳に登り、テントを張って春山スキーをするなど、

に進学し、この分野の最先端の研究をおこなっていたニズベット教授に師事して博士号をとりました。妻とは渡米前に入籍しました。ミシガン大学での自分のテーマは「ものの見方」の文化差についてでした。ヒトの認知・視覚というのはこのころの働きの基本的な部分なので、特に大きな文化差はないと考えられていたものの、実はそれぞれの文化においてものを考える構え方の違いによって、認知・視覚に思いのほか大きな差が生じるということも明らかにするものでした。当時、研究室は、様々な民族的背景を持つ学生たちが、どうやって心理学をもつと実証的かつ面白くできるかを議論しており、そうした国境や文化を超えた自由な研究場面はとても魅力的でした。

卒業後は日本学術振興会ポスドク研究員として再び北大に戻る機会を得、今度は研究者として北大のキャンパスで2年を過ごしました。ポスドクが終わる頃、カナダのアルバータ大学から声がかかり、家族一同、再び大移動となりました。アルバータ大学心理学部は生物学者・脳神経科学者も在籍している学際的な環境です。私は着任以来「文化と認知講座」を主宰し、異文化理解の醍醐味をテーマとして研究を続けています。



また、高校時代に英語ではなくフランス語を専攻していたこともあって、サークル申請して「フランス語研究会」を作りました。当時北大には仏文科はなかったのですが、サークルをサポートしていただいた諸先生には今でも感謝しています。特に中山先生が教材を選んでくれたフランス物理学者の「科学とは大きな建物を共同で作るようなものだ、ある人は柱を一つ作って一生を終え、またある人は窓をつくって一生を終える、一人ひとりの作業は僅かだがそれが建物の建設に貢献している」というフレーズは今でも印象に残っています。自分のアカデミアにおける仕事の倫理—「自分は大きな人類の知のわずかな一部を担っているのだ」という感覚の根



アルバータ大学・文化と認知研究室のメンバー

仕事を始め、ムハンマド・H・ザマン博士著「菌—人類と薬剤耐性菌の攻防史」を含め二冊の翻訳本を出版することができました。エドモントンにも日本語補習校があるので、教師としての仕事も続けています。貴彦・北大卒業後私は京都大学に進学し、ヒトの心と文化の諸問題をあつかう人類学・言語学・心理学の学際的分野—文化心理学を専攻して修士号を、その後、フルブライト奨学生としてアメリカ・ミシガン大学



HELLO NEW WORLD



株式会社 デプロイネイチャー

未来の酪農をデザインする

DAIRY FARMING
REGENERATIVE
SUSTAINABLE
GRASSFED MILK
2021 AUGUST 4TH
NISHIOKOPPI



グローバル同窓生

● 北大との縁

千苗・実家が札幌にあるため、今でも北大を身近に感じております。姉も義兄も二人の甥も北大出身者です。

貴彦・2015年より毎年、北大サマーインスティテュートの講師として1週間ほどの英語での文化心理学コースを担当しております。長男はトロント大学に進学しましたが、一昨年の夏にはボランティアとしてこの夏の授業で英語による討論のお手伝いをしました。次男や長女も大学生になった折には北大生のためにお手伝いできる機会があるかもしれません。



北大で夏に行っている集中講座の主催者側メンバーと(左端が長男、右端が貴彦本人)

神は、私たちの人生の基調音として常に自分の中に鳴り響いています。そしてこのフロンティア精神を若い北大生たち、そして3人の子どもたちにぜひ伝えたいと思っています。

● カナダの国情

最後になりましたが、カナダの国情についても少しお話しします。カナダという国はG7に入っているなど国際的存在感がそれなりにある国だと思えますが、隣国のアメリカと比較すると意外とどういいう国か知られていない面があると思います。例えば、国土が世界第2位の広さであるにも関わらず、人口がわずか3800万人と少ないことなどです。そのためもあってか、カナダは移民を積極的に受け入れています。5人に1人



春に飛来する渡り鳥・カナダゲース

が移民であり、つい先頃には「アフガニスタンからの難民を4万人受け入れる」との発表がありました。

1965年から1970年にかけて、ケベック州の独立運動が激しさを増し、テロにまで発展した時、分裂の危機を乗り越えるため、時の首相ピエール・トルドーが「多文化主義宣言」を行って、「公式の言語が二つあることは事実だが、文化には公式のものはないし、どの民族集団も他の民族集団に対し優位に立つことはない」と公式に表明しました。そうした経緯もあり、現在では、国家をあげて多様性を大切にしていく印象です。様々な国にルーツを持つ人々が住んでおり、私たちの住むエドモントン市が夏に開催する「ヘリテージフェスティバル」には90カ国が出演します。現在はピエール・トルドーの息子であるジャスティン・トルドーが首相を務めているのですが、彼の所属政党名は「Liberal Party of Canada」で、まさにリベラル、私たちは移民にとっては居心地の悪くない空気感だと感じます。リベラルといえば、カナダは居住条件を満たさなくても同性婚を認める唯一の国というところで、自国で結婚を認め

られていない同性カップルが届けを出すためにカナダにやってきます。我が家の子どもたちは、物心付いたときからそういう環境で成長してきたので、様々な国の出身者がいたり、同性カップルがいたり、という状態をごく当たり前に感じているようです。2018年には娯楽用大麻の合法所持が認められました。これには賛否両論ありますが、今ではたくさん的小売店やサロンを目にします。

カナダは国土が広いだけあって自然には恵まれており、夏になると多くの人が嬉々として湖や山のキャンプに赴きます。アルバータ州には絶景を誇るカナディアンロッキーズ国立公園群があり、またオーロラベルトの中にあるため、たまにオーロラを見ることが出来ます。しかし寒いのがたまに傷です。この原稿を書いている12月27日時点でのエドモントン市の気温はマイナス34度で、ニュースによると南極の気温より低かったそうです！

カナダではイギリスから自治権を認められた1867年7月1日をもって建国日としており、これを元に計算すると2022年には建国155年目を迎えます。北海道の開基が1869年ということですので、ほとんど同い年、ご縁を感じる次第です。

異国で一丸の組織作り 今も活きる野球部時代の学び



丸紅株式会社 ホーチミン在住
城嶽祐太郎 (H25・工院)

工学部応用物理学科から大学院
工学研究院に進み、2013年に
新卒で今の会社に就職しました。
4年間の東京勤務後、インドネシ
アで1年、ベトナムで4年弱と計5
年弱海外で勤務しています。これ
までの海外経験をjつて今思うこと
を、大学生時代の経験を思い起こ
しつつお伝えしたいと思います。

● 大学時代の経験

要望に即した商品を製造し、安定
的に供給することを主眼に働いて
います。文化も立場も異なるベト
ナムの方々との仕事は、勉強の
日々ですが、学生時代の経験とリ
ンクする場面に遭遇する機会も多
いと感じています。

● 現在の仕事について

現在、主にベトナム木質資源に
由来する木材原料や製品の日本向
け輸出に携わっています。ベトナ
ムは木質資源が非常に豊富に豊
富であり、木材関連事業
は国の主要産業です。特
に植林事業は元々主に国
が行っていました。が、
徐々に民間企業や農家へ
と移行していき、国土全
域に根付く主要産業の一
つになっています。植林
農家や製品製造工場の協
力の下、日本の取引先の



職場の仲間たち
で、学生時代の
経験が活動の
経験に終始しま
すことをご容赦
ください。
野球部では本
当に多くを学び
ました。小学生
から様々なチー
ムに所属し、

色々な野球を見て来ましたが、北
大野球部に所属したこと、初め
て本場の野球(バカ)集団に触れ、
組織野球とは何たるかの一片を見
た気がしています。そして、この
「集団」が「組織」に変遷する過
程は、今でも私の糧として確かに
存在しています。

入部した当時から、「組織力
勝負」に対する追求が、「ハ
ンパない」組織だと感じていまし
た。時にはつらいことももちろん
ありましたが、毎日が新鮮で楽
しい、そんな日々を過ごしてい
た気がします。先輩方の背中を見
て育った自身が最高年次になつた
時、気づけば相当な経験や知識が
蓄積されていきました。当時の指導
者、諸先輩方には感謝の念しかあ
りません。その一方、最高年次の
立場になって初めて(厳密には、
下級生の時からその重要性を理解
し、「精一杯やってきたつもり」
だったのですが)気づいた(気
づかされた)事が、組織が強くな
る上で最も重要な事だったので

ないかと改めて感じています。
先ず、当時ご指導頂いた監督・
コーチ(首脳陣)には、学生が自
ら考えることの重要性を教示して
頂き、加えてOB OGの皆様の支
えを頂きながら、選手・マネー
ジャー皆で成長したチームであつ
たと思っています。特に同期と
は日々議論に議論を重ね、試行錯
誤しながら組織としての指針/方
針を幾度となく検討/検証しまし
た。北大野球部の「あり方」を追
求するという点では、部史上最も
考え、結果、史上最高の年代であつ
たと今でも思っています！が、こ
れに対しては上下関係なく卒部生
全員から「ふざけるな！」とい
う声が聞こえてきそうです(笑)。
その通り、自身の代を大いに贖
目に見ていること、自覚しており
ます。当時のチームで特筆すべき
はそこではなく、別にあると考え
ています。
それは、当時の1〜3年生によ

るチームへの貢献です。これは、
長く続く部の歴史においても特筆
されるべきものであったと思いま
す。北大野球部史上最高の1年生
であり、2年生であり、3年生で
あったと。個々の詳細を書くス
ペースがないので割愛しますが、
試合に出る出ないに関わらず、全
員が各年次における役割を全うし
たことで、チームに「一体感」が
生まれ、ただの集団が一丸の組織
に昇華したと考えています。当
時、最高学年として大いに助けら
れたと共に、それまでの自身が如
何に至らなかつたかを痛感したも

のでした。最終学年としてあの組
織に携われたことに、今でも感
謝し誇りに思います。これが先述
した学生時代の最大の気づきであ
り、今でも私が組織を考える上
の軸になっていると感じていま
す。
2010年春にこの力を主源と
して全日本選手権に出場する機会
を頂きました。同大会に際しまし
ては、大学関係の多くの皆様から
絶大な支援を頂戴し、また、北大
応援団を中心とした地鳴りにも似
た声援に多大なる力を頂きました
事、この場を借りて深く感謝申し
上げます。ありがとうございます。

● ベトナムで目指す一体感

ベトナムの事業では企業の社長
から現場担当者、農家に至るま
で、立場やバックグラウンドも全
く異なる方々と共に業務に当た
り、当初はうまくいかない事が
多々ありました。その要因の一
つに、先に述べた「一体感」の無
さがあつた様に思います。我々が
主に対面する企業の社長との関係
性は決して悪くなく、一生懸命に
要望に応えようとしてくれるので
すが、各場所における努力の方向
性が一致していなかつたのだと思
います。初めの頃は相手方の経験
や実績に負け、現場と直接やりと

りすることを許し
てもらえませんでした。しかし、こ
ちらも徐々に経験を
積み議論を重ね
につれ、現場と
直接話す機会も増
え、今では自由に
現場を動き回れる
ようになり、少
ずつですが改善が
みられるようにな
りました。



休日にはサッカー場で地元の子どもたちと
野球を楽しんでいます

ることは、現場で働く
従業員の方々が一生懸
命協力してくれ、我々
を温かく迎えてくれる
ことであり、また、そ
れが各々の生活の源に
なっている事に立ち戻
ることで、ある種盲
目的に進むことが
出来ています。もちろ
ん、皆がそうではな
く、我々に不満を抱き
ながらも、生活のため
ならと考えている方も
いると思いますが、将来的には自
身も含め、誰もが胸を張れる事業
にしていきたいと思ひます。

◆◆◆

今改めて感じる
ことは、どんなに上層部と意思疎
通が図れていても、それが現場レ
ベルに浸透しなければ求める結果
は生まれにくいということです。
逆に言えば、現場深くまで入り込
み、各所で何を感じ、何を困難に
思っているかを共有できれば、向
かう方向性が収束していき、その
過程で「一体感」が生まれ、一歩
ずつでも前進していけると感じる
ことができます。
取り組んでいる事業はその特性
上、世界の環境保全に寄与すると
同時に、関連する会社の業績にも
資すると信じて業務に当たってい
ますが、ふとした時に本当に最適
か？と自問することがあります。
未だこの疑問に対しては、これ、
といった答えを見つけれずにい
ますが、一つ明確に糧となってい



全日本大学野球選手権ベスト8のチームメンバー(2010年)
旧帝大としては史上初の快挙でした

28歳違いのトリプルの縁!

高木直人さん(院応化H4)と横山修平さん(院工学R2)

「同窓会を通じて意外な繋がりに結びつく」という事はよく聞きます。私も長年の同窓会活動を通じて自分自身がそんな経験を多数してきましたし、「ご縁」のキュー

ピットとしての役割も果たしてきました。今回ご紹介するのは、北大のグローバル教育プログラム「新渡戸カレッジ」からスタートした「ご縁」が、何とトリプル

(高校・大学学部・会社)で先輩後輩の仲と判った極めて珍しいケースです。お2人の「ご縁」の経緯について、本誌ではお馴染みの高木さん(当事者の1人)のベルギービールバー「コム・ラ・グーズ」でお話を伺いました。



ベルギービールバー「コム・ラ・グーズ」のカウンターで

八谷:まず、お2人の北大時代(二つ目の「ご縁」)について簡単に教えていただけますか?

高木:高校の化学の授業で教わったデュポンのナイロンの発明に感銘を受けて化

学を志し、1年浪人して理Ⅱ系(当時)に入りました。大学時代はアルバイトとつい2020年まで活動していた「ラグタイム」というオールシーズンのスポーツサークル活動に燃えていました。でも、学部移行し(工学部合成化学工学科)、大学院に進むと、実験などの時間に追われるようになっていきましたね。

横山:私は特に明確な志望があったわけではないのですが、自動車や飛行機のメカニク的なことが好きだったので総合系に入学しました。生まれ育った苦小牧や一時住んでいたカナダでアイスホッケーに触れ合う機会が多かったのですが、スケート部に入ったのですが、月寒体育館での夜10時からの練習が生活リズムに合わなくて、「学生フォーミュラ」という自動車好きが集う団体に移りました。

大学院ではスイスのチューリッヒに1年留学し、カーボンファイバー強化プラスチック(CFRP)の構造最適化の研究をしまし



聞き手の八谷さん

た。CFRPは軽く強い材料で、自動車や航空機の材料として使われているものです。八谷:まだこのあたりではお2人の接点は「北大OB」というだけで、お互いのつながりも見えませぬね。もう少しお互いのその後などについて教えて下さい。

高木:私は、大学院を修了した後、米国化学メーカーのデュポンに入社しました。ドイツの会社に転職して、その時に出会ったヴァイツェンビールがヨーロッパのビールに興味を持つきっかけとなりました。特に多種多様な味わいのあるベルギービールにはまり、その後、デュポンに戻ってからビールの資格を取ったりしているうちに、自分のビアバーを持ちたいと思うようになっていきました。2015年3月にデュポンを早期退職し、その年の9月に田町にて「コム・ラ・グーズ」を開店しました。横山:私は今、デュポンに勤務し



横山さん

りになってきたかなと日々実感しています。

八谷:最後に2人にとって「北大」とはどんな場所か、何を学んだかお聞かせ下さい。

横山:これがやりたい!というのが特になく北大に入ったのですが、今振り返るとその時々で興味を持ったことを積極的に学んでいたような気がします。また、大学は何かがあった時にいつでも帰ることの出来る場所と感じています。新渡戸カレッジを始めとして北大で出会った先輩・仲間たちとは本当に今でも親しくさせていた

ているのですが、入社のきっかけは2期生として卒業した新渡戸カレッジです。私を担当していたいたフェロー(村上幸夫さん)がデュポンOBの方で、様々な産業とのつながりや自分の専門が活かせる化学会社が面白そうだと思

八谷:お2人は米国デュポンのOBと現役社員という「二つ目のご縁」があったんですね。では、「三つ目のご縁」に関するエピソードを聞かせていただけませんか?

横山:卒業後も親交のあった村上さんから「デュポンOBがオーナーマスターのベルギービールのバーがある」と誘われ、お店を訪



「コム・ラ・グーズ」オーナー 高木さん

れたのがきっかけでした。そこで初めて会社と北大工学部だけでなく、高校の先輩ということが分かり、これにはびっくりしました!高木:これには私も驚きました。大手電機メーカーやITベンダーのように北大OBOGが多い会社ならいざ知らず、デュポンは北大同窓が少ないですからね。でも「三つ目のご縁」でつながった後輩と会えてとても嬉しかったです。そして、この出会いって、このお店のコンセプトにもぴたりなのですね。

八谷:お店のコンセプトとこの「三つ目のご縁」の出会いがぴったり?高木:店名「コム・ラ・グーズ」に店のコンセプトを込めています。グーズとは熟成年齢の異なる自然発酵ビールを混ぜ合わせて造るベルギービールの製法で、それによっていい味わいを引き出します。この店に老いも若きも集い、人生を語り合い、「グーズのように」味わいある店にしたいと「コム・ラ・グーズ」と名付けました。八谷:まさにお2人も様々な「ご縁」で今があるんですね。その他に北大などを含めて「ご縁」に関する面白いエピソードがあれば是非!

横山:私は新渡戸カレッジがきっかけでデュポンと、そして高木さん

北アルプス・林道・野生動物に携わった35年 北大と北大青年寄宿舎に捧ぐ

◆北大農学部へ

石川県七尾市生まれ、北大に落ちた兄の勧めで、一浪して理Ⅲ系入学。北大青年寄宿舎で自堕落な生活を送るも、どっぺることなく農学部林学科に移行。

極寒の2月に行われた雨竜演習林での冬山実習は、最低気温氷点下33度。演習林の建物は古い木造



教養祭の仮装行列(左端が本人)

で、風呂場は床の簀の子が一面霜で真っ白でした。湯舟のお湯をかけてもアツという間にまた一面霜に覆われたことに衝撃を受けましたが、演習林実習はとにかく楽しかった思い出があります。

◆北大青年寄宿舎の生活

大学2年から卒業までの3年間を北大青年寄宿舎という私設寮で暮らしました。この寄宿舎は、新渡戸稲造氏と同期の札幌農学校第2期生・宮部金吾先生が50年近く舎長として運営された、恵迪寮よりも歴史が古い、禁酒禁煙がモットーの男子寮でした。平成17年に閉舎してしまいましたが、自分が入舎した頃は15名が住んでいました。教育学部以外のすべての学部生が生活し、他の大学からの中退者や社会人からの再入学など幅広くユニークなメンバー

構成でした。1部屋2人で、月1万8000円の舎費、風呂は3日に一度、肉のおかずは貴重なご馳走で、カレーの具は貝のひも、餃子の具は納豆、米は古々米と実につつましい食事でした。クラーク会館での女子大とのダンパのラスト曲はいつも「つのだひる」の「メリー・ジェーン」で、毎回ごちなくチークを踊ったことは忘れられません。

新歓コンパは北12条の北大前にあった「おさむら旅館」一階の大広間を貸し切り、新入生がつぶれたらお開きとなるのが恒例で、その後は寄宿舎に戻り、ベッドに新聞紙を敷き詰め、枕もとに見張りが一人つきました。ある年の新歓ではつぶれた後に脱走した新入生が現れましたが、彼は池田町のワイン祭りでも、酔いつぶれながらも夜中にヒッチハイクで青年寄宿舎まで帰ってくるという伝説も作りました。

寄宿舎の先輩に、すすきの東急イン地下のケルンでエスカルゴを



北大青年寄宿舎(左端が本人)

つまみにワイン飲ませていただきたいことや、卒業した寄宿舎OBが北大へのリクルーティングについて、就活しないでいた私を勧誘してくれたことはいまだに忘れられません。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

◆富山県庁入庁 職場は北アルプス

研究生になるつもりで就職活動はせず、親への言い訳のつもりで富山県の造園職を受験し、面接では「県庁前公園と札幌の大通り公園を比較してください」との質問に対して、「県庁前公園は知らないの比較できません」と答えたにも関わらず採用となりました。

昭和61年、最初に配属されたのが本庁林政課計画係で電算担当。COBOLというプログラミング言語の研修を受講後、実際に大型コンピュータで処理しようとしてもエラーばかり。すぐに異動希望を出したら課長に3年間は辛抱しろと叱られました。本庁のお堅い雰囲気になじめず、クールビズ



北アルプス奥黒部・雲ノ平の調査



有峰森林管理事務所の雪下ろし積雪440cmで作業はまだ半分以下



消防防災ヘリに搭乗
離陸20分後に剣岳に飛び降り

雲ノ平、高天原、水晶岳など通常1泊か2泊かかるところへ、登山口からヘリコプターに乗って30分ほどで行くこともありました。剣岳の鎖の補修のために特別に消防防災ヘリに出勤してもらったときは、富

がはじまる20年前から1年中ノースーツ、ノーネクタイ、夏はポロシャツで勤めていました。

次に配属されたのが、薬師岳の登山口に近い標高1100mの有峰にある出先事務所でした。半年間平日は泊まり込みで、事務所の2階が各職員の部屋で、1階が職場。3食昼寝付きで毎晩お酒が飲める大変ありがたい職場でした。

ある大雪の年、業者と一緒に積雪440cmの有峰にヘリコプターで乗り込み、事務所の屋根の雪下ろしをしたことがあります。雪下ろしが終わった後も悪天候で帰れず、ついに持ち込んだ酒がなくなくなりました。結局、5日間泊まり込むことになったのですが、その間、降ろした雪で事務所が埋まって中に入れず、不満のたまった業

者から「事務所2階の外壁を壊して酒を取りに行かせてくれ!」と言われ、なだめるのに苦労したこともありました。

平成7年から2年間、自然保護課で国立国定公園内の許認可、登山道管理の担当となりました。4月に雪上車で標高2450mの室堂に行き、立山自然保護センターの開所準備。夏山シーズン前には剣沢キャンプ場で県の野営場管理所の小屋明け作業、剣岳・別山尾根の確認と鎖の補強。夏山シーズンには立山、雲ノ平、黒部五郎岳など北アルプスに毎週登り、延べ8回の登山道調査。秋には奥黒部の秘境「高天原」や「下の廊下」の確認など。一般の方なら10年以上かかるような登山経験を1年で経験できて、登山が趣味の自分には願ってもない職場でした。

雲ノ平、高天

原、水晶岳など通常1泊か2泊かかるところへ、登山口からヘリコプターに乗って30分ほどで行くこともありました。剣岳の鎖の補修のために特別に消防防災ヘリに出勤してもらったときは、富

山空港から20分ほどで剣岳頂上付近へ。ガスがわいて着陸できずホバリングしているヘリから飛び降りたこともいい経験です。

また、当時皇太子だった天皇陛下が皇后雅子様とお忍びで立山登山される計画が持ち上がり、県警本部や自然保護課内で綿密な打ち合わせがありました。その時のやりとりの一部はこうです。

県警「お二人に気づかれないよう登山道わきに警備のものを配置したい」

自分「立山は森林限界を超えており隠れるところはありません」

県警「万が一にもお怪我があつてはならないので浮石を除去してほしい」

自分「登山道の浮石を除去するのは不可能です」

課長補佐「雅子様のお手洗いのためにお絞りをおいてはどうでしょうか?」

自分「.....」

このようなあほらしい打合せを延々と真剣にやりましたが、結局、お忍び登山は中止となり、自分がザックに詰めて各山小屋に置いて回った大量のトイレ消臭剤とサンポールは無駄になったのでした。

富山県農林水産総合技術センター
森林研究所所長
島崎 清明 (S61・農)

◆立案者の側から見る
公共事業のあれこれ

平成11年に本庁の治山課林道係の主任となりましたが、林道の設計や現場経験がないため、林野庁との協議や年上でベテランぞろいの出先の林道班長とのやりとりが苦勞しました。

また当時は、林道事業が無駄な公共事業の代表として批判されていたことから、林道を開設する根拠を示すための富山県林道網整備計画の策定を任せられました。計画の概要を作って、課長、次長、部長、副知事と順番にレクチャーと修正を繰り返すこと2か月でやっと知事説明に。「まだこんな無駄な計画を考えているのか!」と真っ赤な顔で怒られたので、修正案では、必要性が低いと判断され



立山カルデラの調査
25年前に設計に関わった吊り橋

たら中止するなどの厳しい表現にしたところ、今度は一転「自分は林道事業は必要だと思ってる。今は世間から厳しい評価を受けているが、時期がくれば必要なのは整備しなければならぬ。ここまでの表現にすることはない」と言われました。この時、やっぱり知事は政治家だと感じたことを覚えています。

その後、平成17年に出先事務所林道班長となりました。長年、崩壊による通行止めが続いていた林道の改良工事が進められていたが、整備の必要性に疑問を感じていたので、その計画を中止させる目的で「林道のあり方検討会」を作ったところ、改良工事を要望している市の課長から「林道事業を推進しなければならぬあなただが、そんなことをしていたら中止するなどの厳しい表現にしたところ、今度は一転「自分は林道事業は必要だと思ってる。今は世間から厳しい評価を受けているが、時期がくれば必要なのは整備しなければならぬ。ここまでの表現にすることはない」と言われました。この時、やっぱり知事は政治家だと感じたことを覚えています。

◆クマ・イノシシとの軋轢
利害ある人間との軋轢

平成28年、その出先事務所の次長となって戻った時に、再度「林道のあり方検討会」を復活させました。また1年で異動となりましたが、現在、関係市からの改良工事の要望もなくなり、事実上計画は中止となっています。すべて計画通りに進めるのではなく、現場をよく見て臨機応変に計画を見直し、管理できない施設は作らないことが公共事業をやるうえで重要だと思っています。

自然保護課野生生物係では、ツキノワグマやニホンザルの保護管理などの業務を担当しました。平成16年に富山県は全国で最も多い24人のクマによる人身被害が発生しており、ツキノワグマによる人身被害防止が求められていました。一方、ツキノワグマは生息数が少なく個体群の保護が求められていたため、人家周辺で捕獲されたクマは唐辛子スプレーをかけて奥山に放す学習放獣を基本としていました。ある市で学習放獣を行ったところ、市長室に呼ばれ、市長から「県が、



立山アルペンルートの調査
後ろはタテヤマスギの巨木

でもイノシシやニホンジカによる農作物被害に悩まされておられ、明治以降、輸出や軍の防寒具のための乱獲で野生動物を山に追いやりました。この50年ほどで、また昔の状態に戻っただけでも言えます。よく「なぜ人がいるところにクマが出るのか?」と聞かれましたが、富山県は「クマがいるところに人が出ている」状況です。歴史も含め、正しい知識を持つことが野生動物問題を正確に認識できる基本だと思っています。

◆35年を振り返って思う
北大で学んだこと

令和元年からは、研究など全く経験していないのに、木材研究所の所長を2年、現在は森林研究所の所長をしています。研究員が研究しやすい職場づくりに努め、時には研究員に同行して調査もしています。学生時代、ほとんど真面目に大学に行かなかった身としては、35年ぶりに大学に戻ったような新鮮な気持ちです。

県職員として35年間で17の職場を経験しました。北アルプス奥黒部の登山道調査からロシアのウラジオストックでの渡り鳥調査、ドラム缶檻のツキノワグマを自ら山に放獣するなど、貴重な経験をた

森林ボランティアが森林整備をしているところにクマを放すのは、「行政の矛盾だ」などと1時間近く説教されました。

ある町は、農作物被害があるためカモシカの捕獲を毎年要望していましたが、捕獲しなくても被害防除対策をすれば防ぐことができるかと判断し何年も要望に応えなかったところ、ある年知事への要望で、町長が「担当者を辞めさせろ」と発言、知事は「彼は、私の言うことを聞かない職員だね」と回答したとのことで、その場に同席していた同期から「お前の公務員人生は終わった」と言われました。

その頃、佐渡でトキの野生復帰のための放鳥が始まり、そのうちの1羽の雌のトキが富山県黒部市に長期滞在したことがありました。トキメキと名付けられて特別住民票が交付され、トキメキ音頭まで作られるほど盛り上がり、県議会でも「トキメキさんがおひとり様でいるのは、富山県の晩婚化の象徴だ。県は雄のトキを誘致し、2世誕生に挑戦すべき」とのんでもない質問が出るほどでした。議会答弁に困った部長から「トキは富山での野生復帰はできない」ことを確認してほしいと言われて、専門家会合の開催される佐渡に行くことに。環境省の担当

くさんさせてもらいました。

大半は、上司の指示通り粛々と業務を進めましたが、町長の要望に応えなかったことや町長室に乗り込み直談判したこと、公共事業の担当でありながら、工事を中止させるための検討会も作りました。

そんな行動をしたのは、ある部長から「知事がやれと言ったからといって全部やる必要はない。本当に自分が必要だと思っただけをやりなさい」と言われたことと、北大と北大青年寄宿舎での生活で、何事に対しても固定観念を持たず、自分の頭で考え判断することの大切さを教えられたからだと思います。

者からは「佐渡では富山にトキがいることを不快に思っているので、富山県が会合に参加していることがわかるのはまずい」と言われ、こっそりレンタサイクルで10kmほど離れた会場に行き、マスクミに交じって環境省の課長に質問し、佐渡以外での野生復帰活動はないとの回答を引き出しました。

その後も議会でトキメキさんの質問が出るたびに、やさしく見守ってくださいとの答弁を繰り返しました。トキメキさんは、富山に5年間滞在しましたが、2世が誕生することはなく、その後、石川県に移住してしまいました。

イノシシの被害が開始されたころ、自然保護課で対応するだけでなく農業普及指導員との連携が不可欠であると考え、農業普及指導員の参画を要請したところ、当時の農業関係課の課長から「島崎の妄想がはじまった」と門前払いされましたが、その後、イノシシ被害が急増すると課長の態度も一変し、一緒に協力する体制を作ることができました。

野生生物係の4年間はクマ、サル、イノシシなどの出没による軋轢に苦勞しましたが、それ以上に人間との軋轢に苦勞した思いが強いです。野生動物による被害対策を担当して、住民から知事にいたるまで、人はとかく聞きかじりや

思い込みで判断し、自分の見たいものしか見えず、聴きたいものしか聴こえないものだと感じました。「クマがいらないと何が困るのか?」と私に尋ねた県幹部がいました。生産力至上主義と人間中心主義が、役に立たないものだと無意識に判断してしまうことや、自分のカテゴリーに属さないものを抑圧し排除してしまうことにも気づかされました。

自然保護団体からは、こんなにクマの捕獲を許可するなら「自然保護課」ではなく「自然駆除課」だといわれ、地元住民からは「自然保護課」という部署名だから、人命や農作物より動物を大事にしているのだからと言われました。それぞれの立場で「あーすれば、こうなるはず」と勝手に思い込み、そうならない現実をいら立っているのではないのでしょうか。現実には「なるようにしかかからない」ものであり、野生動物の行動の変化は、温暖化でもスギの植林のせいでもなく、人間の生活様式の変化によるものです。

人々が捕食者として里山で野生動物に圧力をかけていた時代が変わり、中山間地域から撤退し、人間の圧力が減ったことが今の状態を反映しているにすぎません。歴史的にみても、江戸時代は平野部

あの頃の自分と向き合う 科学と日常をつなぐサイエンスライティング



家族に向けて、科学に関するイラストや文章を書いていたときの机

イトや雑誌の媒体で科学に関するニュースや記事を書いたり、書籍の執筆や科学書の翻訳などを行ったりします。

現在私は、科学に関する記事や一般向け科学書籍の執筆をさせていただいています。つい数ヶ月前、初の単著『日常と科学の間にあるモヤモヤを解消する本』を上梓しました。ここでは職場奮闘記として、本書の出版までを書いてみます。

◆始まりは物理だった

この発端は、高校時代にさかのぼります。私は高校生のとき、いわゆる文系と理系でいえばどっちつかずで「理科は好きだけど苦手」というタイプの生徒でした。特に物理で、自然現象がシンプルな式で表せるとはどうしても思えず、非常に苦しみました。

一方で当時担当の先生は、物理が大好きでした。「予想外の現象が現れることが破格におもしろい」と、授業中、本当に楽しそう

にしていました。私は、何か自分は物理や科学のことを誤解しているかもしれないと思い、科学の背景や考え方、詳しい内容を知りたくなりました。

どっちつかずは高校卒業までも続き、総合入試を知って北大に進学しました。教養棟で科学史や物理学の講義を受けるうちに、科学の歴史的な背景や、科学での基本的なものの方が可視化されてきました。

ほんの少しですが、科学の裏側を見ることができた気がして、私はこの目で見たいことを人に伝えたいと思うようになりました。当時SNSを知らなかった私は、学生寮の机に向かい、早速講義で知ったことをイラストと文章にして、家族に向けて送るようになりました。

そのうちいつの間にか、イラストつきの科学本を書いたらどうかと思うようになりました。それが高校生のときからずっと心の奥に、なんとなく物理と折り合え

科学技術コミュニケーション教育研究部門 CoSTEPで、科学と社会をつなぐ活動、科学技術コミュニケーションを学び始めました。

平日の昼間に物理学の講義を受けては、夜にそのことを学生寮の机でイラストや文章にし、水曜日の夜と土曜日になつたらCoSTEPで科学や科学技術をどう伝えるかを学びました。ものかき物理学徒の誕生です。

そのうち、科学と日常生活はどんな関係にあるのかを北大構内を歩きながらぼんやり考えるようになり、あちこちで科学について教えたり書いたりする機会をいただくようになりました。



紅葉の時期の理学部前、たまに散歩をして気分転換

またま出版甲子園という大会を知りました。この大会は、学生による書籍企画のコンペティションです。研究の傍ら書店に通っては机に向かい、科学との付き合い方を考える一般向け科学書籍の企画を書いて応募したところ、決勝大会に進出。編集者の方から出版のオファーをいただきました。

◆対話しながら書く

ここからが本場の戦いでした。高校生の自分がずっと問いかけて

きます。「物理は、科学は、おもしろそうだ。でも、腑に落ちないし折り合えない。」私がこの本でやったことは実際のところ、この高校生の自分と科学との間に、橋を架けることでした。

過去、物理に苦しんだ主な原因は、自然現象がシンプルな式で表せるとどうしても思えないというものだった。もう計算がわからないとか、そういう問題ですらありません。そうです、これは世界をどのように見るかの問題なのです。

高校生の自分は、自然現象はいろいろなもの複雑に絡みあったものでシンプルには表せないと思っと思っています。ものが落下するときには空気抵抗もはたらくし、もの自体も回転するはず。なのにどうして物理ではそんなに簡単に、落下する物体についての式が立てられるのでしょうか。

それは空気抵抗ともの大きさを見無視した理想的な状況を考えているからです。物理だって自然現象がシンプルだとは言っています。複雑に相互作用しているものをかき分けて、本質的なところを抜き出して初めて、シンプルな式が現れます。

ここが丁寧に伝えられれば、高校生の自分も「そういうことか」と思えます。足りないのは「自然現象は複雑である」という認識の共有だったのです。これで高校生の自分の疑問は一つ解消されました。

原稿を進める中で、各々のテーマで起こっているすれ違いや衝突をとりあげ、心の中で高校生の自分と対話しながら、それらを解消することを目指しました。こうして原稿を書き進め、イラストもつけて、ついに2021年の8月に、出版に辿り着きました。高校生時から数えれば、およそ8年が経過していました。

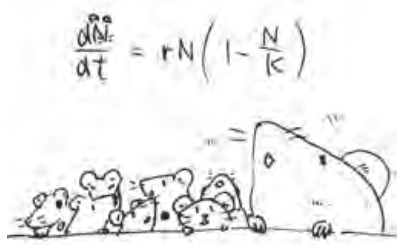
◆異なる世界をつないでいく

本書の執筆の過程で、私は北大で本当にやりたい放題、のびのびと活動させていただきました。今の私があるのは北大関係者の皆様のおかげです。末筆ながら活動を支えてくださった先輩方、皆様に心より感謝申し上げます。

人はそれぞれ、その人の世界観のもとに生きていて、たとえ世界観が同じであっても、高校生の私と高校物理のようにすれ違いが起こります。世界観が異なっていれば、衝突やすれ違いはもっと容易に起こるでしょう。

私の目標の一つは、こうした異なる世界どうしをつなぐことです。特に、日常生活を送る生活者の世界と、客観的な事実を追求する科学の世界の間で起きている問題を見つけ、解決することを目指しています。

そしていつか、日常生活と科学や科学技術がよりよい関係を築けたらと、自宅の机から願っています。



4年生の頃描いたイラスト
上部方程式は、生物の個体数の増加を記述する、ロジスティック方程式



サイエンスライター
口町 和香
(R3・理学院)

1996年群馬県出身。北海道大学理学院物性物理学専攻修了。物理学修士。現在は某所で勤務しながら、サイエンスライター、イラストレーターの「かきもち」(ペンネーム)として活動している。
[連絡先] waka.kuchimachi@gmail.com



『日常と科学の間にあるモヤモヤを解消する本』(翔泳社)
Amazonや各書店で発売中!



田部井 淳 (たべい・あつし)さん
栃木県足利市出身、H13工・情報処理・修

恵比寿駅が最寄りだが、ガーデンプレイスを抜けた住宅地の一角にたまたまお店なので、道に迷う可能性は大きい。来店時はサイトで地図を確認するなど、予め準備して出かける目印。お店は猫が

札幌発祥ながらすっかり市民権を得たスープカレーだが、TV等で紹介されカレー好きにもちょっと知られたお店・シャナイア。大手IT企業に就職したものの、こどもの頃からの料理好きが捨てがたく、思い切って転身。料理学校やフランス料理店で修行の

後に、クルマでの移動販売を経て、現在のお店に至っている。この店のスープカレーは薬膳入り特徴。通信講座や薬膳レストランで学び、シャナイア風にアレンジしたもの。スープカレーは、チキン・エビ・野菜を組み合わせたメニューでどれも絶品。具の量も食べ応え十分。



薬膳スープカレーの店
シャナイア

薬膳スープカレー・シャナイア
TEL.03-3442-3962
東京都目黒区三田1-5-5
【アクセス】
JR線・日比谷線「恵比寿駅」東口より徒歩約10分
【営業時間】
ランチ11:30~15:00(L.O.14:15)
ディナー17:00~21:00(L.O.20:00)
日曜日・月曜日定休
※テイクアウトについてはホームページを参照。

【ホームページ】
<http://www.nekoaji.net/shania/>



高木直人 (たかぎ・なおと)さん
千歳市出身、札幌南高卒、H4工・化合・修

木さんに相談すれば、お好みのテイストのビールを教えてください。ベルギービール初心者でも十分に楽しめる。JR田町駅や都営三田線田町駅から徒歩4分5分の所。お気軽にどうぞ。

以前ドイツ系企業で働いていた頃、ヨーロッパに出張した時によくベルギービールを飲む機会があり、そのビール好きが高じて自分のお店を持つようになったとか。興味レベルの段階でスクールに通い、ビアテイスターやベルギー

店内は木をベースに落ち着いた空間で、ゆっくり寛げる雰囲気漂う。現在は、ベルギービールの樽生6種類、ボトルは100種類以上を用意している。マスターの高



ベルギービール専門店
コム・ラ・グーズ
Comme la Gueuze

常備100種類以上のベルギービール専門店
Comme la Gueuze(コム・ラ・グーズ)
TEL03-6435-2463
東京都港区芝5-24-16 菊池ビル2F
【アクセス】
JR線「田町駅」より徒歩5分
【営業時間】
17:00~24:00
(日・祝、第1月曜日休み)

【公式Facebook】<https://www.facebook.com/comme.la.gueuze>



工藤 卓 (くどう・たかし)さん 余市生まれ、札幌西高卒、北大水産
ダイエットして若返りました!(笑)

飲食業40年で培ったネットワークで北海道産品を直送で仕入れられるのがお店の強み。蒲田駅西口のサンロードアーケードを歩いていくと2分ほどの所にある。本物の魚介の味を是非ともご賞味あれ!

自分が食べたい料理がある・自分が行きたい店をコンセプトに6年前に開いたお店「余市」。北海道産の新鮮な魚介類を食べたい時に訪れたいお店だ。

店主の工藤さんは札幌西高出身で、水産学部に入學。バブル期前の経済が上り調子の頃、学生の身ながら、講義そっちのけで居酒屋の店長を任せ、ついには大手フランチャイズの店舗開発で、全国を飛び回っていた異色の経歴。

【ヒトサラ】公式情報 <https://hitsara.com/0006130407/>



北海道産魚介類の店
海鮮食堂 余市

TEL.03-3734-0411
東京都大田区西蒲田7-65-9 第3青木ビル1F
【アクセス】
JR線・東急多摩川線「蒲田駅」西口より「サンロードアーケード」に入ると徒歩2分
【営業時間】
11:30~26:00
(日祝火は12時~24時)
時々火休



森山りな (もりやま・りな)さん 岩見沢市出身、H2法学部

お店は小岩駅からフラワーロードを300m位進み、メガネ屋さんを左折したところにある。お店のフェースブックもチェック!

扱い難くて手間もかかるけど、風味が全く違うからと、北海道産小麦と無添加生地こだわりの、美味しいパンを作り続けている。お店のスペースの都合で大きなオーブンを使えないため、ご主人は早朝から一日何回もパンを焼き続けているのだが、それが結果的にお客

様に美味しい焼きたてパンを提供できているとか。お店は今年で8年目。設立前はお二人ともパン屋とは全く違う仕事をしていて、小岩に人脈があったわけでもないのに、何から何まで一からのスタート。開店以来、ずっと新しいメニューとこだわりのパン作りをチャレンジしている。お店イチオシは焼きカレーパン。ひと口味わってみる価値あり!

【公式Facebook】
<https://www.facebook.com/443325022474148/>



焼きたてパン工房
もりーな

TEL.03-6458-0255
東京都江戸川区南小岩7-18-14
橋本ビル 101
【アクセス】JR総武線「小岩駅」より350m
【営業時間】
9:00~18:00
(売り切れ次第CLOSE)
月曜日・火曜日定休
(月曜日が祝日の場合は営業)



(株)ブライダルは
北海道大学同窓会の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

43年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、平成18年より「北海道大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この会報誌「FRONTIER」を見たとおっしゃってくだされば、校友の皆様は特典付(登録料100%OFF)にてご入会いただけます。

北海道大コース 登録料33,000円(税込)
100%OFF

お問い合わせ (月曜定休) **0120-415-412**

詳しくはホームページをご覧ください。

(株)ブライダル

検索

ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>

1978年創業
株式会社 **ブライダル**

名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7 13 コスモ栄ビル9F
東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26 2 新宿野村ビル28F

コロナに負けるな、仲間のお店にGO!

→ 仲間のお店応援!



高木宏昭 (たかぎひろあき)さん 愛媛県出身、H29教育

現在は土・日のみ工房直売所で販売し、平日は地元産直市場やネットショップで展開。「ふるさと納税」は半年で300件超とか。静岡に行かれた際はちよつと足を延ばして高木さんのお店を訪れてみては!

口に入れた瞬間にミルク感溢れるジュシーさが特徴のモッツアレラチーズ。愛媛から国語教師になるべく北大に入学するも、道内の乳製品の美味しさに感動。学生時代よりオリジナルアイスを開発し、大学生協や構内『エルムの森』で販売するなど、「大志」の原点

は北の大地にあつたようだ。卒業後は道内のチーズ工房での修業を経て、2021年1月に富士山の麓、静岡県でチーズ製造・販売を行う「七富チーズ工房」を創業。工房のある富士宮市は標高が高く、関東でもトップクラスの良質な牛乳が生産される酪農が盛んな高原地帯。塩も調整剤も使用しない一番人気のモッツアレラは、地場産品コンテストでも優勝する程のお墨付き。

【ホームページ】<https://nanatomicheese.shopinfo.jp/>

食卓にそっと寄り添う 七富チーズ工房



本場北海道仕込み
七富チーズ工房
TEL.070-8534-4772
静岡県富士宮市下条487-1
【アクセス】
新東名「新富士IC」からクルマで30分
【営業時間】
土曜・日曜10:00~17:00

ふるさと納税サイト
「ふるさとチョイス」
もご利用下さい!



馬屋原亨史 (うまやはらりょうじ)さん 大阪市出身、H15工

煮込み、多種多様なスパイスを加えて香り豊かに仕上げている。小麦粉を使わず油は少な目で、スパイスの風味を存分に楽しめる。固めで粒も大きいご飯は、減農薬で栽培された北海道産米「大地の星」を使っている。新宿御苑の新宿門付近のビル2階。広々としたフロアで、奥の掘りごたつ風の特別席は寮の風情が感じられる。

「北大カレー部」というワードを聞いたことがありますか?店主が恵迪寮時代に立ち上げたグループで、ググると当時作ったウェブページが今でも見ることが出来る。在学中からのスパイスへのこだわりには驚かされる。6年かけてシステム工学を学ん

だものの、カレーの世界が忘れられず、3年の計測器メーカー勤務を経て、2007年に「草枕」を開業。旅行が好きで、その枕詞を店名にしたとか。一皿あたり丸々一個程のすりおろした玉ねぎをたっぷり時間をかけて煮込み、多種多様なスパイスを加えて香り豊かに仕上げている。小麦粉を使わず油は少な目で、スパイスの風味を存分に楽しめる。固めで粒も大きいご飯は、減農薬で栽培された北海道産米「大地の星」を使っている。新宿御苑の新宿門付近のビル2階。広々としたフロアで、奥の掘りごたつ風の特別席は寮の風情が感じられる。

スパイスカレーのお店 curry草枕



curry 草枕 (カレー クサマクラ)
TEL.03-5379-0790
東京都新宿区新宿2-4-9 中江ビル 2F
【アクセス】
地下鉄「新宿御苑前駅」から304m
地下鉄「新宿三丁目駅」
A1出口より徒歩3分
C5出口より徒歩1分
【営業時間】
11:00~15:00 (L.O.14:30)
18:00~21:00 (L.O.20:30)



★営業時間が通常と異なっています。来店の際は事前にお問い合わせください。

2022年(令和4年)
寒中お見舞い
申し上げます。

北大東京同窓会
役員一同・事務局

会長 横田 浩 (経・60)
事務局 廣重 晃以 (法・55)

納谷 峻徳

(工・38・冶金)

JFEホールディングス株式会社

名誉顧問
數土 文夫

(工・39・冶金)

石山 喬

(工・42・冶金)

岡 隆次郎

(工・42・冶金)

北海道大学校友会エールム

会長
杉江 和男

(工・45・応化修)

ライフライン・
コミュニケーションズ株式会社

特別顧問
小野 喜世彦

(工・49・電子)

北海道大学工学部同窓会
東京支部

支部長
井上 修平

(工・50・資源開発)

松谷 寛

(工・52・電子)

北海道大学獣医学部同窓会

副会長
関東支部 支部長
鷺野 弘明

(獣・51)

行政改革推進会議歳出改革WG委員
公益財団法人交通協力会

常務理事
石堂 正信

(法・44)

有限会社ケースオフィス
代表取締役
川添 公貴

(工・56・応化)

北大スキー部OB会

東京支部長
中村 秀治

(工・58・建築)

味の素株式会社

取締役 代表執行役副社長
Chief Digital Officer (CDO)
福士 博司

(工・59・応化修)

株式会社IHI
資源エネルギー・環境事業領域
技監

岩崎 哲也

(工・59・機)

ワイエム・エス株式会社

代表取締役
島田 久

(工・61・金属)

尾瀬沼畔長蔵小屋
尾瀬ヶ原第一長蔵小屋

代表取締役
平野 太郎

(工・H3・衛生)

十条ケミカル株式会社

代表取締役社長
小山 裕

(工・H4・金属)

株式会社デブロイネイチャー

代表取締役社長 CEO
山田 尚大

(工・H23・応物修)

新日本相撲甚句会

理事
師範代
野呂 忠一

北海道三笠市ふるさと応援大使 (薬・39)

北海道大学歯学部同窓会
関東支部

支部長
横田 秀一

(歯・60)

森 和弘

(歯・H1)

北水同窓会
東京支部一同

支部長 樋口 達夫 (水・50・食品・修)
副支部長 細見 典男 (水・48・食品)
副支部長 吉田 克典 (水・H2・食品)

祝・マザーズ上場
証券コード4069
(株)BlueMeme

常勤監査役 杉山 和彦 (法・45)

東京フラテ会

会長 畠山 昌則 (医・50)

北大法学部
東京同窓会 役員一同

会長 小口 正範 (法・53)
事務局長 大野 峻 (法・H18)

公益社団法人北海道倶楽部
副理事長兼常務理事・事務局長
DG株式会社
代表取締役
本間 修
(法・45)

三菱重工工業株式会社
顧問
小口 正範
(法・53)

株式会社トクヤマ
代表取締役社長執行役員
横田 浩
(経・60)

財界ひろば

編集部記者
野口 晋一
(文・H8)

佐々木 豊実
(農・35・林学)

株式会社ライリーテクノ
代表取締役社長・農学博士
富田 守
(農・36・畜産)

株式会社ぶらう
代表取締役
石川 裕一
(法・54)

株式会社町村農場
代表取締役
町村 均
(法・60)

JFEスチール株式会社
常務執行役員
堀江 亮介
(法・61)

中外製薬株式会社
執行役員
デジタルトランスフォーメーションユニット長
志済 聡子
(法・61)

株式会社明治屋
特別顧問
松沢 幸一
(農・48・農化・修)

技術士(建設部門)
坂倉 雅夫
(農・48・農工)

一般社団法人緑の循環認証会議
専務理事
梶谷 辰哉
(農・50・林学)

中外製薬株式会社
代表取締役会長
小坂 達朗
(農・51・農化)

北大経済学部
東京同窓会 役員一同

会長 永松 昌一 (経・57)
事務局長 菅埜 誠 (経・52)

株式会社サクセスボード
代表取締役社長
菅野 聡
(法・62)

北海道大学大学院法学研究科
研究科長・法学部長・法学博士
小名木 明宏

月島食品工業株式会社
代表取締役社長
戸田 信之
(農・51・農化)

ITアドバイザー
櫻田 巧
(農・58・農経)

北大スキー部OB会 東京支部 幹事
北大東京同窓会 理事
(社)札幌農学同窓会 東京支部 理事
(社)全日本学生スキー連盟 理事長
新宿高校朝陽同窓会 副会長
高橋 寛
(農・62・農工)

ビジネスサイエンス
＆テクノロジーズ株式会社
代表取締役
小野 桂子
(農・62・農化)

一般社団法人
札幌農学同窓会

東京支部 役員一同
理事長 梶谷 辰哉 (農・50・林学)
副理事長 坂倉 雅夫 (農・48・農工)
副理事長 櫻田 巧 (農・58・農経)

北海道大学法学部同窓会
会長
佐々木 亮子
(法・47)

北海道大学法学部同窓会
副会長兼事務局長
高橋 了
(法・47)

三晃堂三井印店
代表
三井 晃一
(農・H1・農学)

Crowe GTA Myanmar Co.,Ltd.
Managing Partner
瀬戸山 洋介
(農・H12・農工)

新入会員
(令和3年7月以降にご逝去のお知らせをいただいた方々。敬称略)
古館清吾(S28法)、北井良吉(S36工・土木)、加納元雄(S48経・経済)
田謙(H14工・環境工学)、依田智子(H2工・化合)

計報

令和3年7月以降にご逝去のお知らせをいただいた方々。敬称略

古館清吾(S28法)、北井良吉(S36工・土木)、加納元雄(S48経・経済)

名刺広告は1コマ、5千円で、皆様にご協力をいただいています。
hokudaic@poppy.ocn.ne.jp

北海道大学の近況

(2021年 夏・秋)

北海道大学総務企画部広報課

学生に対して食料支援を実施

本学では、6月4日(金)に函館キャンパスの学生200名、同月25日(金)に札幌キャンパスの学生1000名、7月2日(金)に札幌キャンパスに家族を伴い来日している留学生75名を対象に、



支援物資等

函館キャンパスの様子

札幌キャンパスの様子

留学生への支援の様子

食料支援を実施しました。食料支援の実施にあたっては、北海道大学フロンティア基金を原資とし、北海道大学生協同組合の協力、東洋水産株式会社、エースコック株式会社の協賛を得られました。本学は、北海道外からの入学者が6割を超えており、親元を離れ一人暮らしをしている学生が多く、家族からの仕送りやアルバイト収入が減少している学生が多いことから、学生支援の一環として実施したものです。食料の配付にあたっては、三密回避のため、事前に希望者の募集を行い、受取時間を指定して行いました。実施アンケートを行った結果、支援への感謝の他「今後も実施して欲しい」との意見が多かったことから、今後も同様の支援を検討していくこととされています。(学務部学生支援課)

「はやぶさ2」が持ち帰った「リュウグウ」のサンプルが本学に到着

6月21日(月)、探査機「はやぶさ2」が採取した小惑星「リュウグウ」のサンプルが、本学に到着しました。サンプルは、今回の初期分析の総括を務める東京大学

の橘省吾教授から、本学理学研究院の塚本尚義教授に手渡されました。今回到着したサンプルは、太陽系の起源と進化を解明することを目指し、およそ30年かけて開発



到着したばかりのサンプルを囲む研究グループと塚本教授(写真右)と橘教授(写真左)

インタビュー動画は次のQRコードからご覧いただけます。



◆参考サイト

- ・塚本尚義教授にインタビュー
- ・いいね!Hokudai



(総務企画部広報課)

「北海道大学ホームカミングデー2021」をオンラインで開催

昨年「ホームカミングデー2020」が新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み中止となりましたが、今年は新型コロナウイルス感染症防止について、本学の行動指針に基づき、関係者人数制限・手指消毒・間隔及び撮影場所の換気など十分配慮した実施の計画及び動画撮影を行い、オンラインを前提に開催に向けて準備してまいりました。

そして、この度「Be ambitious again」をモットーに9月24日(金)から26日(日)の3日間、2年ぶりとなる「北海道大学ホームカミングデー2021」をオンラインで開催しました。

10回目の開催となる今年のホームカミングデーは、同窓生や在学生の保護者など例年多くの参加者に対する安全に配慮して、オンラインによるライブストーリーミング配信を主体にオンデマンド配信も組み合わせる内容にて執り行いました。

全学行事のほか、部局・同窓会が主催する様々な行事も概ねオンラインで開催されました。参加者は、ライブストーリーミング配信によるZoomやWebexで旧交を確かめ、現役の学生と世代を超え

た交流を持てました。また、オンデマンド配信によるYouTubeでは好きな時間に視聴することができ、各々楽しいひとときを過ごされたと思います。

なお、次回、第11回のホームカミングデーについては、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたホームカミングデー実施方法として、対面式とオンライン方式のハイブリット開催を視野に入れて検討してまいります。このため、来年度の開催日のお知らせについては、開催日が決定次第、お知らせします。来年度も引き続き、北海道大学ホームカミングデーをよろしく願います。

全学行事

総務企画部広報課卒業生・基金室

歓迎式典・記念講演会

9月25日(土)10時~11時45分
百年記念会館大会議室
ライブ配信視聴者3,603名

ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」をオンラインによるライブストーリーミング配信で行いました。ライブ配信用のスタジオとなっ



本学の歩みについて報告する資金総長



歓迎の挨拶を述べる杉江会長

た百年記念会館大会議室では、資金博覧総長をはじめ、出演者が待機するなか、北海道大学交響楽団の弦楽四重奏によるハイドン「日の出」「皇帝」の演奏で式典の幕を開けました。

司会は本学教育学部出身である総務企画部広報課特定専門職員の北村綾子さんが務めました。

初めに資金総長から本学の歩み、「比類なき大学」として本学の教育・社会貢献・世界課題の解決・SDGsへの取組、そして、2026年の創基150周年に向けた北大のプランと現在の取組について説明がなされ、これらへの取組については「光は北から、北から世界へ」との思いで、本学の発展に力を尽くすと結ばれ、最後に、クラーク先生への思いとホームカミングデーの今後の可能性について説明されました。

次に、杉江和男校友会エルム会長からは、校友会エルムの活動紹介があり、大学を取り巻く社会情

北海道知事は、ホームカミングデーの開催を祝福するとともに、道と本学の包括連携の締結、本学との連携協働における取組等について説明されました。

また、昨年10月に資金総長のものと、新体制が発足したことから、本学の理事、監事及びホームカミングデー担当の副学長の紹介も行われました。

続いて、農学研究院の野口伸教授による記念講演会では、「これからのスマート農業」新しい地域社会の創生」と題し、日本農業の現状に照らした農業のIT・ロボット化を専門とするスマート農業の特徴及びメリット、未来貢献まで詳しく研究内容を説明されました。

その後、「学生による活動報告」と題し、新渡戸カレッジ生、新渡戸スクール修了生、北大公認LPRO+サークル「虹の集い」による活動報告がありました。

ました。本動画は大学文書館所蔵の懐かしい写真と郷愁を誘うメロデーから始まり、途中から曲調がアップテンポになると、札幌キャンパスの四季折々の風景が映し出されます。本学の明るい未来を象

特任教授 リスト・ベンジャミン氏 2021年ノーベル化学賞受賞決定

10月6日(水)、スウェーデン王立科学アカデミーは、2021年ノーベル化学賞をリスト・ベンジャミン教授(ドイツ・マックス・プランク石炭研究所所長)及びマクミラン・デイヴィッド教授(アメリカ・プリンストン大学)に贈ることを発表しました。

リスト先生はベルリン自由大学を卒業後、1997年にフランクフルト大学にて博士号(化学)を取得されました。2018年10月の創成研究機構化学反応創成研究拠点(WPI-CReDD)設立時から主任研究者を務められるとともに、現在は本学の特任教授を務められています。本国のドイツでは、マックス・プランク石炭研究所において所長かつ教授として勤務されているとともに、ケルン大学教授を務められています。

受賞対象となった不斉有機触媒の開発に関する研究は、2000年のリスト先生及びマクミラン教授の

ところはありません。●WPI-CReDDの特徴を活かして今後どのような研究を進めていきたいと思いますか。

化学反応を一からデザインできるような日を夢見しています。いつか触媒を全く一からデザインして不斉合成を行うことができるようになるかもしれません。これまでは運に頼っていたところが大きいですが、予測できるようになれば素晴らしいことです。化学を根本的に変えてしまいかもしれませんが、それは新しい世界が開けることでもありますので、恐れる必要はないと思っています。

●WPI-CReDDや北大、日本の若手研究者にメッセージはありますか。私のメッセージはいつも同じです。それは、自分の熱意の向かう方向に従うことです。本当に好きなことをやってください。結果を求める必要はありません。結果にこだわる必要はないのです。

◆総長 寶金清博
本学は、文部科学省の事業「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」に2018年に採択され、化学反応創成研究拠点(CReDD)を同年10月に設立しました。

ICReDDは、第一線の研究者を世界から多数集め、優れた研究環境とき

微するようなフィナーレとなりました。視聴者の皆様には、コロナ禍にも負けない本学の姿を感じて頂けたことと思います。(総務企画部広報課卒業生・基金室)

発表を皮切りに、大きく飛躍した分野です。それまで一般的に不斉合成には金属触媒、あるいは生体触媒が必要だと考えられていましたが、金属を使わず、小さな有機分子そのものが触媒として働くという事実は当時、大きな驚きをもって受け入れられました。より安定・安価で環境にもやさしい有機分子触媒は日本も含めた世界中の研究者によって更に発展し、今では医薬品などの合成にも用いられています。

今回のノーベル賞受賞決定は、本学にとって、2010年に同じくノーベル化学賞を受賞された鈴木章ユニバーシティフェッサー以来、二度目の快挙です。

受賞から一夜明けた10月7日(木)10時30分からは、報道機関13社を集めて記者会見が行われました。リスト先生はドイツにいたため会見には参加されませんでした。吉見宏理事・副学長、WPI-CReDD拠点長の前田理教授、リス

ト研究グループの辻信弥特任助教が列席しました。最初に吉見理事・副学長が祝辞を述べられ、前田教授と辻特任助教が拠点の概要、受賞対象となった研究の概要やリスト先生の人物像、拠点での役割等について説明されました。その後、質疑応答が行われ、記者からはたくさん質問が寄せられ、11時45分に終了しました。会見後には、研究施設の見学も行われ、多くの報道機関が参加しました。

同日夜には、前田教授や辻特任助教をはじめとするWPI-CReDDのメンバーがZoomによりリスト先生とオンライン祝賀会を行いました。

特任教授 リスト・ベンジャミン氏へのオンラインインタビュー
●受賞してどのようなお気持ちですか。

本当に光栄なことで、感謝してもしきれません。これほどの栄誉を一人では背負えませんし、これは私一人への賞ではありません。この栄誉を素晴らしい友人である北大CReDDの皆さんと分かち合えて大変嬉しいです。しばらく皆さんと十分な時間が過ぎていませんでしたが、今このように共に過ごせることが本当に嬉しく、光栄です。どうもありがとうございます。●若くして大きな成果を生み出した

してご参画いただいています。同僚として、そして、CReDDの拠点長として、リスト先生のご受賞をよるごび、祝福しております。

◆化学反応創成研究拠点
特任助教 辻信弥
ノーベル化学賞の受賞の一報を受け、驚くとともに非常に嬉しい気持ちで一杯です。

リスト先生は私の博士課程の指導教員でもあり、約7年ご指導頂いております。現在は北大の特任教員として、リストグループのCo-PIとして勤務しております。

有機分子触媒という分野に対する彼の多大な貢献に敬意を表するとともに、今回の受賞にあらためてお祝いの気持ちを述べさせていただきます。

株式会社ファイターズスポーツ&エンターテインメント
ト・株式会社クボタと3者連携協定の調印式を実施

北海道ポールパークFビレッジ
2023年開業の農園エリアに農業学習施設を設置

10月9日(土)、本学は株式会社ファイターズスポーツ&エンターテインメント、株式会社クボタとともに、2023年に開業する北海道ポールパークFビレッジ(所在地:北海道北広島市、以下「Fビレッジ」)エリア内における農業学習施設の設置について、3者連携協定を締結しました。

秘訣はなんですか。幸運や偶然も大きな要因です。博士課程で師事した先生の影響で、プロフィールに関する70年代の研究について知っていました。その後、スク립ス研究所で酵素の結晶構造を見た時に、その触媒メカニズムについて閃いたのですが、誰も信じてくれないだろうと思いい、不安の中、誰にも言わずに実験を重ねていきました。それが今回の発見につながりました。ですから、いつも確信をもって研究をする必要はなく、むしろ不安や不確かさを大切にすることが重要だと思います。

●実際にWPI-CReDDで、日本で研究をしてみてもどんな印象ですか。学際性や開放性がとても良いと思います。計算化学と実験、AIを組み合わせた研究をするのにこれほど適した

本協定に基づき、Fビレッジエリア内に大人から子どもまで農業について知り、学び、そして楽しむことができる農業学習施設が2023年に設置されます。本施設では、スマート農業などの最先端農業技術を活用した農作物栽培の観覧ができ、農業体験や教育プログラムを通じた次世代の育成、農業を中心としたコミュニティの創出や人材交流(生産者と消費者との交流、近隣農家との連携・協業等)を行うことを目指しています。広大な北海道の大地から、『農業の未来ビジョン』を発信していきます。



左から、北尾裕一株式会社クボタ代表取締役社長、川村浩二株式会社北海道日本ハムファイターズ代表取締役社長、寶金総長。画面右端に写っているのが、現在建設中のFビレッジ。

創出及び人材交流活動
— 北海道の農業への貢献
— SDGsに関する活動推進
調印式では、寶金清博総長から挨拶があり、石井一英工学研究院教授(ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点代表)、野口伸農学研究教育副院長・教授(同副代表)から、Fビレッジ農園事業への参画にあたって本学の役割が説明されました。(総務企画部総務課)

【Fビレッジの主な取り組み】
— 農業技術の展示・紹介
— 次世代の農業を担う人材の育成
— 青少年の農業への興味喚起や食育などの教育活動
— 農業を中心としたコミュニティの創出及び人材交流活動
— 北海道の農業への貢献
— SDGsに関する活動推進

〈安心〉×〈ゆるやかな交流〉でセカンドライフを楽しむ新築分譲マンション



ちょっと素敵な
“大人時間”へ、ようこそ。

【札幌文化芸術劇場】イニシアグラン札幌イースト約1,100m（2020年1月撮影）

55歳からの 大人レジデンス

JR札幌駅徒歩圏
全202邸誕生

専任スタッフが
24時間365日常駐

ゆるやかにつながる
コミュニティサポート



実際のお部屋や共用施設をご覧ください。

**建物内モデルルーム
見学会開催中** [完全予約制]

LINE友達登録はこちらから
LINEからご予約も可能です



売主



お問い合わせは「札幌リライフレジデンスギャラリー」

0120-1248-22

大人レジデンス 検索



営業時間：平日11:00～16:00、土日祝10:00～18:00 定休日：水・木・第3火曜日（祝日は営業いたします）
（夏季・年末年始休暇有り）

（会員のみなさまへ） お願い

一昨年来、北大ジンパはじめ、対面形式の会合や懇親会が開催できず、これまでのような入会活動が滞っております。

機会があれば、同期や先輩後輩に「北大東京同窓会」の活動をお知らせいただき、当会ホームページをご紹介ください！

ホームページは、
北大東京同窓会 **検索**

とお伝えください！

事務局からのお知らせ

北大東京ジンパ 2022 中止

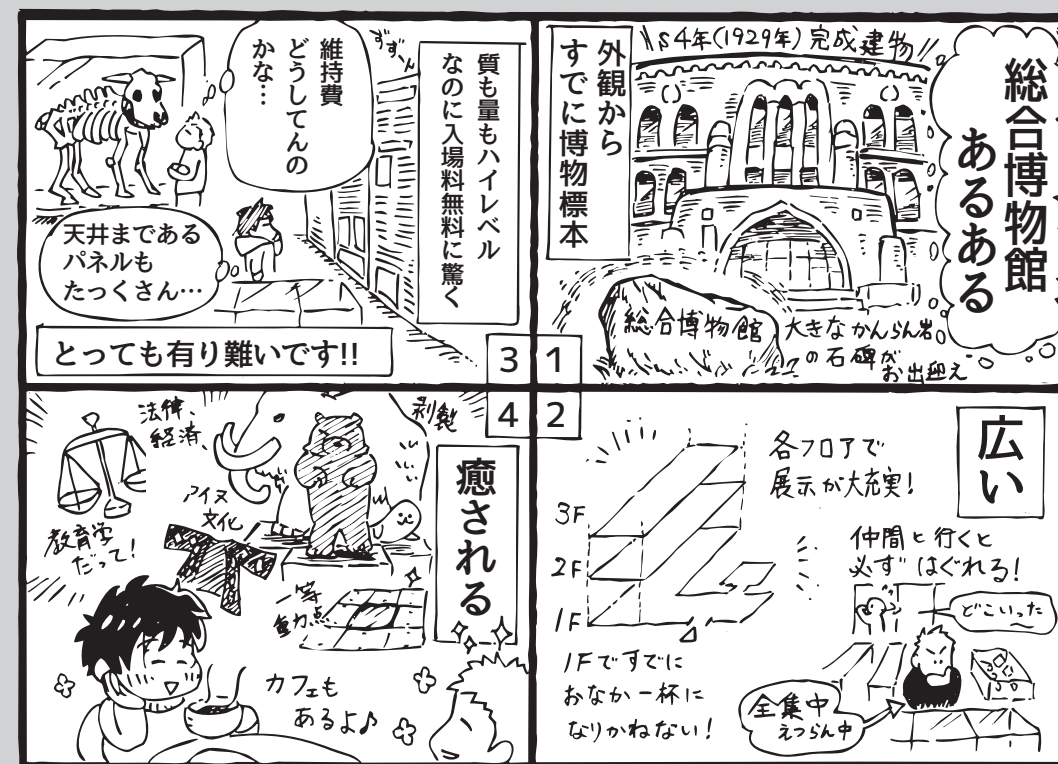
2022年5月の開催に向けて準備して参りましたが、新型コロナの感染状況を鑑み、残念ながら2022年度は開催しないことと致します。

2022年 東京同窓会 総会 6月11日(土)

【リモート開催予定】参加方法に関する詳細は後日送付する総会議案書でご案内致します。

2022年 多摩霊園墓参 10月9日(日)

参加方法などの詳細は次号フロンティアで掲載致します。



歳久人の北大あるある

イラスト©高野葵 (H25環境科学院)

北海道の花

絵と文 鮫島 惇一郎



ザゼンソウ

冬が往つたら春、当たり前前の事なのに春が来ると何故か心が和らぐ。人さまも多くの生き物たちと同じように心が躍るようだ。今年もその春が来た！何処に行こうか？とついあれこれ考えてしまうが、野幌原始林辺りがよからうと、控えめに行く

先が決まる。大沢口から入ると広葉樹林はもうすっかり酣の春。カツラの大きな根元には水溜りがあつて小さなミズバショウの株があつた。小さな白い苞が瑞々しい。傍にはエゾエンゴサクの小鳥を思わせる紫の花が並んでいた。

先に進むと野幌の粘土層に掘られた溝が長々と繋がり、所々に背を丸めた赤褐色の苞があつた。ザゼンソウといった。開花時には発熱現象があり悪臭も有るといふから、匂いを嗅いでみたがやはり戴けない。というのに中には数匹の蠅らしい虫。彼らにとつてはきつと天国なのかもしれない。

もう少し先に歩を進めた。大沢の池近くにある緩い流れと水溜まりで気が付いた。水が多いところには黄色いエゾノリュウキンカの花が群がっていた。そして流れを嫌うようにミズバショウの白い苞がむらがり、さらにササ群落の近くにザゼンソウが並んでいた。成程彼らは上手に水の多い少ないを区別して住みわけていたのだ。

ザゼンソウのことをダルマソウと呼ぶこともある。ふと縁日や夜店に並んだ「起き上がり子法師」の赤い小さな達磨たちのことを思い起した。どちらに転がしても上手に起き上がる小さな達磨たちのことだ。今でもそんな情景は残っているのだろうか？

春の日は長く暖かい。

(昭25理・植)

編集後記

■松沢幸一先輩から北大の歴史を紐解いた原稿が届いたことがきっかけで、古い時代のことが知りたくなり、今号では「昭和の北大」を企画してみた。寄稿していただいた先輩方に感謝申し上げます。在学中は関心が向かなかつた北大の歴史は誇らしく、エピソードから窺える北大生気質は、時代を超えて身近に感じられたが、皆さんはいかがだろうか？

2年前にこんなに長くなるとは全く想像できなかったが、さていよいよコロナは終息してくれるのだろうか？早く声高々に乾杯！と行きたいものだ。(島田久)

FRONTIER 北海道大学 東京同窓会 会報

第60号 2022年(令和4年)2月20日発行

発行所:北海道大学東京同窓会
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー10階

☎03-3211-9211 ☎03-3211-9288

Eメール hokudaic@poppy.ocn.ne.jp

H P http://www.hokudai-tokyo.org/

発行人 横田 浩

編集人 高橋 寛

山本 淳博

陣谷 義直

島田 久 高野 葵 浦崎 稔史
八谷 俊雄 青山 千穂 谷畑 敦史

